

Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0

機能更新およびリリースノート

Copyright ©2012, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

このドキュメントの使用方法	5
関連ドキュメント	5
ドキュメントのフィードバック	6
製品のダウンロード	6
Oracle ILOM 3.0 ファームウェアのバージョン番号スキーム	7
サポートとアクセシビリティ	8
Oracle ILOM 3.0 機能セット	9
Oracle ILOM 3.0 機能セットの概要	9
Oracle ILOM 3.0.3 ファームウェアに対する更新	11
Oracle ILOM 3.0.3 の新機能	11
Oracle ILOM 3.0.3 の時点で解決済みの問題	12
Oracle ILOM 3.0.3 の時点で既知の問題	16
Oracle ILOM 3.0.4 ファームウェアに対する更新	19
Oracle ILOM 3.0.4 の新機能	19
Oracle ILOM 3.0.4 の時点で解決済みの問題	21
Oracle ILOM 3.0.4 の時点で既知の問題	27
Oracle ILOM 3.0.6 ファームウェアに対する更新	31
Oracle ILOM 3.0.6 の新機能	31
Oracle ILOM 3.0.6 の時点で解決済みの問題	32
Oracle ILOM 3.0.6 の時点で既知の問題	33
Oracle ILOM 3.0.8 ファームウェアに対する更新	37
Oracle ILOM 3.0.8 の新機能	37
Oracle ILOM 3.0.8 の時点で解決済みの問題	39
Oracle ILOM 3.0.8 の時点で既知の問題	40
Oracle ILOM 3.0.9 ファームウェアに対する更新	43
Oracle ILOM 3.0.9 の新機能	43
Oracle ILOM 3.0.9 の時点で解決済みの問題	44
Oracle ILOM 3.0.9 の時点で既知の問題	45

Oracle ILOM 3.0.10 ファームウェアに対する更新	49
Oracle ILOM 3.0.10 の新機能	49
Oracle ILOM 3.0.10 の時点で解決済みの問題	50
Oracle ILOM 3.0.10 の時点で既知の問題	51
Oracle ILOM 3.0.12 および Oracle ILOM 3.0.14 ファームウェアに対する更新	57
Oracle ILOM 3.0.12 および Oracle ILOM 3.0.14 の新機能	57
Oracle ILOM 3.0.14 の時点で解決済みの問題	58
Oracle ILOM 3.0.12 の時点で既知の問題	65
Oracle ILOM 3.0.16 ファームウェアに対する更新	67
ILOM 3.0.16 の時点で解決済みの問題	67
Oracle ILOM 3.0.16 の時点で既知の問題	77
Oracle ILOM ドキュメントライブラリの強化	79

このドキュメントの使用方法

この『機能更新およびリリースノート』ガイドでは、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) ファームウェアに対して Oracle ILOM 3.0 リリース以降に追加された機能拡張について説明します。

このガイドは、その他の Oracle ILOM 3.0 のドキュメントライブラリと一緒に使用してください。このガイドは、技術者、システム管理者、Oracle 承認サービスプロバイダ、およびシステムハードウェアの管理経験を持つユーザーを対象にしています。

- 5 ページの「関連ドキュメント」
- 6 ページの「ドキュメントのフィードバック」
- 6 ページの「製品のダウンロード」
- 7 ページの「Oracle ILOM 3.0 ファームウェアのバージョン番号スキーム」
- 8 ページの「サポートとアクセシビリティ」

関連ドキュメント

ドキュメント	リンク
すべての Oracle 製品	http://www.oracle.com/documentation
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 ドキュメントライブラリ	http://www.oracle.com/ pls/topic/lookup?ctx=ilom30
システム管理、単一システム管理 (SSM) のセキュリティ、および診断のドキュメント	http://www.oracle.com/ technetwork/documentation/ sys-mgmt-networking-190072.html
Oracle の Sun Server Hardware Management Pack 2.0	http://docs.oracle.com/cd/E19428-01/index.html

注: 使用している Sun サーバーのプラットフォームに固有の Oracle ILOM 3.1 ドキュメントを見つけるには、使用しているサーバー向けの管理ガイドの Oracle ILOM のセクションを参照してください。

ドキュメントのフィードバック

このドキュメントについてのフィードバックをお寄せください。

<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>

製品のダウンロード

各 Sun サーバーまたは Sun ブレードシャーシシステムの Oracle ILOM 3.0 ファームウェアの更新は、My Oracle Support (MOS) Web サイトからダウンロードできるスタンドアロンソフトウェア更新によって利用できます。このようなソフトウェア更新を MOS Web サイトからダウンロードするには、次の手順を参照してください。

▼ 製品のソフトウェアおよびファームウェアのダウンロード

- 1 <http://support.oracle.com> にアクセスします。
- 2 **My Oracle Support** にサインインします。
- 3 ページ上部にある「パッチと更新版」タブをクリックします。
- 4 「パッチ検索」パネルの「検索」タブの上部で、「製品またはファミリー (拡張)」を選択します。
- 5 「対象製品」リストボックスに、製品名の一部またはすべてを入力し（「**Sun Server X2-4**」など）、一致する結果が表示されたら、目的の製品を選択します。
- 6 「リリース」リストボックスで、目的のソフトウェアリリースの横にあるチェックボックスを選択します。
- 7 「検索」をクリックします。
「パッチ検索結果」ページが表示されます。
- 8 「パッチ検索結果」ページで、目的のパッチを選択します (たとえば、**Sun Server X2-4 SW 1.3.1** リリースの **ILOM** および **BIOS** 部分用の **Patch 14579071** など)。
パッチ固有の「パッチ検索結果」ページが表示されます。
- 9 パッチ固有の「パッチ検索結果」ページの右ペインで、「ダウンロード」をクリックします。
「ファイル・ダウンロード」ダイアログボックスが表示されます。

- 10 「ファイル・ダウンロード」ダイアログボックスで、目的のパッチを選択してダウンロードを開始します。

Oracle ILOM 3.0 ファームウェアのバージョン番号スキーム

Oracle ILOM 3.0 では、ファームウェアのバージョン番号スキームを使用することによって、サーバーまたは CMM で実行しているファームウェアのバージョンを識別しやすくしています。この番号スキームでは、5つのフィールドがある文字列を使用しています。たとえば、a.b.c.d.e となり、ここでは:

- a - Oracle ILOM のメジャーバージョンを示します。
- b - Oracle ILOM のマイナーバージョンを示します。
- c - Oracle ILOM の更新バージョンを示します。
- d - Oracle ILOM のマイクロバージョンを示します。マイクロバージョンは、プラットフォームまたはプラットフォームのグループ単位で管理されます。詳細は、使用しているプラットフォームのプロダクトノートを参照してください。
- e - Oracle ILOM のナノバージョンを示します。ナノバージョンは、マイクロバージョンの増分反復です。

たとえば、Oracle ILOM 3.1.2.1.a の意味は次のとおりです。

- Oracle ILOM 3 はメジャーバージョンです
- Oracle ILOM 3.1 はマイナーバージョンです
- Oracle ILOM 3.1.2 は2つ目の更新バージョンです
- Oracle ILOM 3.1.2.1 はマイクロバージョンです
- Oracle ILOM 3.1.2.1.a は3.1.2.1 のナノバージョンです

ヒント - お使いの Sun サーバーまたは CMM にインストールされている Oracle ILOM ファームウェアバージョンを確認するには、Web インタフェースで「System Information」 > 「Versions」 ページにナビゲートするか、コマンド行インタフェースで `version` と入力します。

サポートとアクセシビリティ

説明	リンク
My Oracle Support を通じた電子的なサポートへのアクセス	http://support.oracle.com 聴覚障害の方へ: http://www.oracle.com/accessibility/support.html
アクセシビリティに対する Oracle のコミットメントについて	http://www.oracle.com/us/corporate/accessibility/index.html

Oracle ILOM 3.0 機能セット

この章では、Oracle ILOM 3.0 機能セットについて説明します。この章の内容は次のとおりです。

- 9 ページの「Oracle ILOM 3.0 機能セットの概要」
 - 9 ページの「サーバー固有の Oracle ILOM 機能」
 - 10 ページの「CMM 固有の機能」
 - 10 ページの「CMM シャーシレベル管理」

Oracle ILOM 3.0 機能セットの概要

Oracle ILOM 3.0 機能セットは、Oracle Sun Blade モジュラーシステム、サーバーモジュール(ブレード)、およびラックマウントサーバーのすべてに適用される共通の Oracle ILOM 機能をまとめたものです。これらの機能は、Oracle ILOM 3.0.x ファームウェアに組み込まれています。3.0.x ファームウェアは、サーバーサービスプロセッサ (Service Processor、SP) にインストールされ、該当する場合はシャーシ監視モジュール (Chassis Monitoring Module、CMM) にもインストールされます。

注 - CMM は、Oracle Sun Blade モジュラーシステムに適用されます。CMM は、Oracle のラックマウントサーバーには適用されません。

このセクションには、次のトピックが含まれています。

- 9 ページの「サーバー固有の Oracle ILOM 機能」
- 10 ページの「CMM 固有の機能」
 - 10 ページの「CMM シャーシレベル管理」

サーバー固有の Oracle ILOM 機能

Oracle ILOM 3.0.x SP ファームウェアは、Oracle の多数のサーバープラットフォーム上で動作します。すべてのプラットフォームに共通の機能に加えて、Oracle サーバーに固有のその他の機能もサポートします。使用するサーバーでサポートされる Oracle ILOM 3.0.x の機能に関する追加情報については、そのサーバー向けに提供されている Oracle ILOM 補足マニュアルまたは管理ガイドを参照してください。

CMM 固有の機能

シャーシ監視モジュール (Chassis Monitoring Module、CMM) 上の Oracle ILOM 3.0 ファームウェアには、静的に割り当てるか、または DHCP を使用して動的に割り当てる個別の IP アドレスを構成します。CMM は、サーバーモジュールの Oracle ILOM 構成に対する「コンジット」として動作し、ネットワークアドレスや管理ユーザーアカウントのような設定の構成や表示が可能になります。

さらに、CMM によって HTTP および CLI の「パススルー」インタフェースがサポートされるので、CMM の直接シリアルポート接続または 10/100/1000-BASE-T ネットワーク管理ポート接続を介して、すべてのシャーシ機能にアクセスできます。

CMM シャーシレベル管理

CMM の Oracle ILOM は、個別のコンポーネントのシステム管理やシャーシレベルでの総合的なコンポーネント管理が可能な階層型の管理アーキテクチャーを備えています。

CMM には次の管理機能があります。

- IPMI サテライトコントローラの実装。シャーシ環境センサーがサーバーモジュールの BMC 機能によって認識されるようになります。
- CLI、Web、SNMP、IPMI の各インタフェースによる環境およびインベントリの直接管理
- CMM、Network Express Module (NEM)、およびサーバーモジュール SP のファームウェア管理。
- サーバーモジュールと HTTP リンク、および CLI SSH コンテキストのパススルー管理
- シャーシの電源制御
- 次のコンポーネントへのアクセス
 - シャーシ
 - 電源装置
 - ファン
 - ネットワークエクスプレスモジュール (NEM)
 - サーバーモジュールの SP

Oracle ILOM 3.0.3 ファームウェアに対する更新

この章では、Oracle ILOM 3.0.3 ファームウェアリリースで追加された新しい機能について説明します。新しい機能を実装する手順を説明します。解決済みおよび既知の問題についても説明します。さらに、新しい機能を詳しく説明した、Oracle ILOM 3.0 ドキュメントの参照先も示しています。

この章には、次のトピックが含まれています。

- 11 ページの「Oracle ILOM 3.0.3 の新機能」
- 12 ページの「Oracle ILOM 3.0.3 の時点で解決済みの問題」
- 16 ページの「Oracle ILOM 3.0.3 の時点で既知の問題」

Oracle ILOM 3.0.3 の新機能

次の表に、Oracle ILOM 3.0.3 リリースで利用できる新機能を記載します。Oracle ILOM 3.0 ドキュメントセットで各機能の説明が記載されているガイドも参照先として示しています。

トピックの説明	参照先
CMM シャーシ管理ビューとドキュメントの更新	■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - Web 手順ガイド』の「Web インタフェースの概要」
CMM 電源管理メトリックの拡張	■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - 概念ガイド』の「ハードウェアインタフェースの電力の監視および管理」
プラットフォーム固有の消費電力履歴表示に関する拡張機能	■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - CLI 手順ガイド』の「電力監視およびハードウェアインタフェースの管理」 ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - Web 手順ガイド』の「電力監視およびハードウェアインタフェースの管理」

トピックの説明	参照先
Oracle ILOM CLI または Web インタフェースを使用して BIOS のブートデバイス設定をオーバーライドする拡張機能	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - 概念ガイド』の「リモートホスト管理」の操作 ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - CLI 手順ガイド』の「リモートホストの電源状態の管理」 ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - Web 手順ガイド』の「リモートホストの電源状態を管理する」
障害が発生したコンポーネントの修理後にイベントログから障害をクリアする機能に関する情報の更新	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - 概念ガイド』の「システム監視と警告管理」 ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - CLI 手順ガイド』の「コンポーネントのステータスと保守処理の管理」 ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - Web 手順ガイド』の「コンポーネント状態と保守作業を管理する」
ジャンプリnkによる Web ページの拡張	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - Web 手順ガイド』の「Web インタフェースの概要」
スナップショットユーティリティの新しいデータ収集オプション	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 保守と診断 - CLI および Web ガイド』の「システムの問題を診断するための SP データの収集」

Oracle ILOM 3.0.3 の時点で解決済みの問題

このセクションでは、Oracle ILOM 3.0.3 の時点で解決済みの問題について説明します。各問題に固有の変更リクエスト (CR) ID 番号と更新が存在する場合は、あわせて示します。

トピックの説明	リンク
Oracle ILOM リモートコンソールに関する解決済みの問題	<ul style="list-style-type: none"> ■ 13 ページの「国際キーボードでの Alt-Graph キーの機能」

トピックの説明	リンク
ユーザー管理に関する解決済みの問題	<ul style="list-style-type: none"> 14 ページの「Web インタフェースでファイルをアップロードするときに「Browse」 ボタンが表示されない」
SSH ホスト鍵に関する解決済みの問題	<ul style="list-style-type: none"> 14 ページの「SSH 鍵を新しく生成したときに SSH サーバーの再起動が必要」 14 ページの「SSH ホスト鍵をロードするとエラーメッセージが表示される」
警告管理に関する解決済みの問題	<ul style="list-style-type: none"> 15 ページの「IP アドレスを使用する電子メールアドレスが警告管理ルールのクエリーで受け入れられる」
SPARC サーバーのシステムクロック設定に関する解決済みの問題	<ul style="list-style-type: none"> 15 ページの「CLI を使用してタイムゾーンを設定するときに、タイムゾーンによってはクロックが正しく再計算されない (SPARC サーバー)」

国際キーボードでの Alt-Graph キーの機能

問題: クライアントで実行されている Oracle ILOM リモートコンソールのバージョンによっては、国際キーボードの Alt-Graph キーが誤動作します。

この問題は、次のように 2 段階で対処されました。

回避方法: ショートカットキーの組み合わせ (ALT-z) を追加し、これを使用して Oracle ILOM リモートコンソールで「右 Alt」キーボードメニュー項目のオン/オフを切り替えます。この回避方法は、Java 開発キット (JDK) のバージョンにかかわらず使用できます。ただし、この回避方法には、ALT-GR キーを直接送信できないという制約があります。この回避方法を使用するには、ショートカットキー (ALT-z) をサポートしているバージョンの Oracle ILOM リモートコンソールを実行している必要があります。

根本的な解決方法: この解決方法では、Oracle ILOM リモートコンソールの特別なメニューオプションや操作を使用せずに、ALT-GR キーを直接送信します。ただし、新しいバージョンの JDK を使用する必要があります。この根本的な解決方法を使用するには、ALT-GR キーを直接送信するバージョンの Oracle ILOM リモートコンソールを実行している必要があります。また、JDK に関する次の要件が根本的な解決方法に適用されます。

- Windows では、JDK 1.5 以上を使用します。
- Solaris および Linux では、JDK 1.6 Update 10 以上を使用します。

Oracle ILOM の `version` コマンドを使用すると、プラットフォーム上で実行されている Oracle ILOM のバージョンを判別できます。

注 - Linux および Solaris バージョンの Oracle ILOM 3.0.x では、回避方法と根本的な解決方法の両方が含まれています。Windows バージョンの Oracle ILOM 3.0.x では、根本的な解決方法に示した機能が含まれていますが、回避方法の内容は含まれていません。

Web インタフェースでファイルをアップロードするときに「Browse」ボタンが表示されない

CR 6787083

問題: 構成ページで SSL 証明書をアップロードするときに、次の状況に該当していると「Browse」オプションが表示されません。

- 別の SSL 証明書とキーを HTTPS アクセス用にアップロードするとき
- オプションの証明書を LDAP/SSL 用に構成するとき
- オプションの証明書を Active Directory 用に構成するとき
- ユーザー SSH 鍵を構成するとき
- バックアップと復元の操作を構成するとき

SSL 証明書を取得するために「Upload」ボタンをクリックすると新しいウィンドウが表示されますが、ファイルを選択してアップロードすることができません。

更新: この問題は Oracle ILOM 3.0.3 リリースで修正されました。SSL 証明書をアップロードするための「Browse」オプションが使用可能になりました。

SSH 鍵を新しく生成したときに SSH サーバーの再起動が必要

CR 6781487

問題: 新しい SSH 鍵を生成する場合は、新しいキーを有効にするために、SSH サーバーを再起動する必要があります。

更新: Oracle ILOM 3.0.3 からは、サーバーを再起動しなくても SSH 鍵をすぐに新しい接続に使用できるようになりました。

SSH ホスト鍵をロードするとエラーメッセージが表示される

CR 6776200

問題: load コマンドを使用して SSH ホスト鍵をアップロードするときに、正常に SSH ホスト鍵がアップロードされても「set: Command Failed」というエラーメッセージが表示されることがありました。

更新: この問題は Oracle ILOM 3.0.3 リリースで修正されました。このエラーメッセージは、Oracle ILOM 3.0.3 以降のバージョンでは表示されなくなりました。

IP アドレスを使用する電子メールアドレスが警告管理ルールのクエリーで受け入れられる

CR 6776214

問題: Oracle ILOM の警告管理機能を使用するときは、Oracle ILOM ではホスト名ベースの電子メールアドレスを使用する必要があります。

更新: IP アドレスを使用して電子メール警告を送信できるようになりました。IP ベースの電子メールアドレスのチェックが Oracle ILOM 3.0.3 リリースで別途追加されました。本来の検証に失敗した場合は、IP アドレスで電子メールが個別にチェックされます。

CLI を使用してタイムゾーンを設定するときに、タイムゾーンによってはクロックが正しく再計算されない (SPARC サーバー)

CR 6798875

問題: CLI を使用してタイムゾーンを設定するときに、タイムゾーンによっては、クロックが正しく再計算されないか、クロックのタイムゾーン設定が更新されないことがあります。

更新: Oracle ILOM 3.0.3.20.b の時点では、この問題は SPARC サーバーに対しては修正済みです。

クロックが正しく再計算されるようにするには、タイムゾーンに有効なグローバルタイムゾーン名を使用する必要があります。有効なグローバルタイムゾーン名の一覧は、インターネット (http://en.wikipedia.org/wiki/List_of_zoneinfo_time_zones など) で検索できます。

例:

- SP クロックのタイムゾーンプロパティ値を米国東部標準時に設定するには、次のように入力します。

-> `set /SP/clock/ timezone=America/New_York`

または

- SP クロックのタイムゾーンプロパティ値を米国中部標準時に設定するには、次のように入力します。

-> `set /SP/clock/ timezone=America/Chicago`

Oracle ILOM 3.0.3 の時点で既知の問題

このセクションでは、Oracle ILOM 3.0.3 の時点で既知となっている問題について説明します。次の表に、既知の問題の一覧と、その問題の説明が記載されているセクションへのリンクを示します。各問題に固有の変更リクエスト (CR) 番号と回避方法が存在する場合は、あわせて示します。

トピックの説明	リンク
予期しない BIOS の動作	<ul style="list-style-type: none"> ■ 16 ページの「SP のリポート後、BIOS アップグレードが遅延される」
デフォルトへのリセット時の予期しない動作	<ul style="list-style-type: none"> ■ 17 ページの「外部シリアルポート設定がデフォルト値にリセットされない」
1 時間ごとのタイムスタンプの動作	<ul style="list-style-type: none"> ■ 17 ページの「1 時間ごとの平均電力のタイムスタンプに 1 時間未満の増加分が反映されない」
SSH 鍵がロードされない	<ul style="list-style-type: none"> ■ 18 ページの「バックアップ/復元後に SSH 鍵の復元に失敗する」

SP のリポート後、BIOS アップグレードが遅延される

CR 6813514

問題: SP ファームウェアをアップグレードするときに、BIOS ファームウェアをすぐにアップグレードするか、BIOS アップグレードをあとで行うかを選択できます。BIOS をすぐにアップグレードすることを選択した場合は、SP ファームウェアがアップグレードされ、ホストの電源が強制的にオフになり、SP がリポートします。BIOS アップグレードをあとで行うことを選択した場合は、SP ファームウェアがアップグレードされて SP がリポートします。

どちらを選択しても、BIOS はすぐにはプログラムされません。代わりに、SP は新しい 3.0.x イメージでリポートし、ホストの電源がオフになるのを待ちます。BIOS をす

ぐに更新することを選択した場合は、ホストの電源がオフになり、ホスト BIOS のプログラムが開始されます。このプロセスは、完了するまでに2-5分かかります。

ただし、次の2つの問題が発生する可能性があります。

- すぐに **BIOS** をアップグレードするオプションを選択した場合、ホスト BIOS のプログラム中に、BIOS のアップグレードがプログラムされていることが画面に表示されません。BIOS のプログラム中にホストの電源をオンにすると、BIOS は誤記された状態になり、ホストはブートしません。解決方法は、ホストの電源をオフにして、SP が BIOS をプログラムするのを2-5分間待機し、それからホストの電源をオンにすることです。
- **BIOS** アップグレードをあとで行うオプションを選択して、ホストの電源をオフにしなかった場合は、BIOS はアップグレードされません。SP が BIOS をプログラムするためには、ホストの電源をオフにする必要があります。単にホストをリブートした場合は、古い BIOS がそのまま残ります。BIOS と SP ファームウェアの不一致は、システムの誤動作を招くことがあります。

回避方法: SP ファームウェアをアップグレードしたら、できるだけ早くホストの電源をオフにし、少なくとも5分間待機したあとでシステムをリブートすることを強くお勧めします。

外部シリアルポート設定がデフォルト値にリセットされない

CR 6676339

問題: `reset_to_defaults` コマンドを使用すると Oracle ILOM 構成をデフォルト値にリセットできます。ただし、外部シリアルポート設定は `reset_to_defaults` 操作の実行時にリセットされません。

回避方法: CLI または Web インタフェースを使用して外部ポート設定を目的の値に設定してから Oracle ILOM をリブートしてください。外部シリアルポート設定にアクセスするには、CLI で `/SP/serial/external` と入力するか、Web インタフェースで「Configuration」 > 「Serial Port」を選択します。

1時間ごとの平均電力のタイムスタンプに1時間未満の増加分が反映されない

CR 6803961

問題: CLI を使用して CMM にログインしたときに、1時間ごとの電力履歴の中にタイムスタンプが1時間進んだ時間になっているものがあります。このエントリは、前回のタイムスタンプから現在までの平均電力を表しています。

回避方法:ありません。

平均電力のタイムスタンプは、直前の1分間または1時間の「移動平均」ではありません。代わりに、Oracle ILOM は開始時点の時間(「タイム 0」と呼ぶ)を選択します。60秒後に、Oracle ILOM は最初の1分間の平均を記録します。次の59秒間は何も変化せず、タイム 120の時点で、Oracle ILOM は2番目の1分間平均を記録します。最後の1分間平均は直前の1分間の平均であり、センサーが読み取り可能であった時間の最後の1分間の平均ではありません。

1時間平均の場合は、タイム 3600の時点ではじめてサンプルが取得されて最初の1時間の平均が記録されます。2番目の1時間平均が記録されるのは、タイム 7200の時点です。

最後の60個の1分間平均は、最後の1時間平均を保存された時点のデータと比較する場合を除き、最後の1時間平均と等しくありません。

1時間平均の最小値と最大値のタイムスタンプは、1分間平均のタイムスタンプよりもあとのものになることがあります。このようなことが発生するのは Oracle ILOM によってデータが記録されないときであり、この状態になるのは、センサーが読み取り可能ではなくなった(たとえば、電源がオフになったか、値が下がりすぎて計測不可能になった)ときだけです。センサーが読み取り不可能である間は、履歴データが欠落しないように、Oracle ILOM によって「データなし」と記録されます。

バックアップ/復元後に SSH 鍵の復元に失敗する

CR 6808138

問題: Oracle ILOM 構成をバックアップして復元するときに、`/SP/services/ssh/keys` または `/CMM/services/ssh/keys` の下にある RSA および DSA 非公開鍵の復元に失敗します。

回避方法: SP 上に新しい鍵が生成されるときに、次のメッセージが表示されます。

```
Warning: the RSA host key for 'xxx.xxx.xxx.xxx' differs from the key for the IP
address 'xxx.xxx.xxx.xxx' Offending key for IP in ~/.ssh/known_hosts:216
Matching host key in ~/.ssh/known_hosts:189
```

Are you sure you want to continue connecting (yes/no)?

yes と入力するか、`known_hosts` ファイルを編集します。

Oracle ILOM 3.0.4 ファームウェアに対する更新

この章では、Oracle ILOM 3.0.4 ファームウェアリリースで追加された新しい機能について説明します。新しい機能を実装する手順を説明します。解決済みおよび既知の問題についても説明します。さらに、新しい機能を詳しく説明した、Oracle ILOM 3.0 ドキュメントの参照先も示しています。

この章には、次のトピックが含まれています。

- 19 ページの「Oracle ILOM 3.0.4 の新機能」
- 21 ページの「Oracle ILOM 3.0.4 の時点で解決済みの問題」
- 27 ページの「Oracle ILOM 3.0.4 の時点で既知の問題」

Oracle ILOM 3.0.4 の新機能

次の表に、Oracle ILOM 3.0.4 リリースで利用できる新機能を記載します。Oracle ILOM 3.0 ドキュメントセットで各機能の説明が記載されているガイドも参照先として示しています。

トピックの説明	参照先
新しい電源管理レイアウトおよびしきい値制御	<ul style="list-style-type: none">■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - CLI 手順ガイド』の「電力監視およびハードウェアインタフェースの管理」■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - Web 手順ガイド』の「電力監視およびハードウェアインタフェースの管理」
CLIセッションのアイドル時間設定の更新	<ul style="list-style-type: none">■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - CLI 手順ガイド』の「ILOM のログインとログアウトおよびパスワードの回復」

トピックの説明	参照先
LDAP/SSL 認証属性の新しいターゲットの追加	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - CLI 手順ガイド』の「ユーザーアカウントの管理」 ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - Web 手順ガイド』の「ユーザーアカウントを管理する」
SNMP MIB を Oracle ILOM からダウンロードする機能の追加	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - CLI 手順ガイド』の「システム警告の管理」 ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - Web 手順ガイド』の「システム警告と電子メール通知の管理」 ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 プロトコル管理 - SNMP、IPMI、CIM、WS-MAN ガイド』の「SNMP の概要」
ユーザーセッションに割り当てられたユーザーの役割を表示する機能の追加	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - CLI 手順ガイド』の「ユーザーアカウントの管理」 ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - Web 手順ガイド』の「ユーザーアカウントを管理する」
Active Directory での拡張検索モードの拡張	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - CLI 手順ガイド』の「ユーザーアカウントの管理」 ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - Web 手順ガイド』の「ユーザーアカウントを管理する」
IPMI トラップ、電子メール警告、または SNMP トラップを設定するときのテスト警告の拡張	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - CLI 手順ガイド』の「システム警告の管理」 ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - Web 手順ガイド』の「システム警告と電子メール通知の管理」

トピックの説明	参照先
Oracle ILOM リモートコンソールのロック機能の追加	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - 概念ガイド』の「ネットワーク設定」 ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - CLI 手順ガイド』の「ストレージメディアのリダイレクトと Oracle ILOM リモートコンソールの表示のロック」 ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - Web 手順ガイド』の「リモートホストのリダイレクションの管理と Oracle ILOM リモートコンソールのセキュリティー保護」
新しい Oracle ILOM SP ネットワークポート	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - 概念ガイド』の「ネットワーク設定」
リモートホスト KVMS のマウスモード設定の更新	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』の「CLI コマンドリファレンス」 ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web 手順ガイド』の「リモートホストのリダイレクトの管理と ILOM リモートコンソールのセキュリティー保護」

Oracle ILOM 3.0.4 の時点で解決済みの問題

このセクションでは、Oracle ILOM 3.0.4 リリースで解決済みとなっている問題について説明します。各問題に固有の変更リクエスト (CR) ID 番号と更新が存在する場合は、あわせて示します。

トピックの説明	リンク
ユーザー管理に関する解決済みの問題	<ul style="list-style-type: none"> ■ 22 ページの「デフォルトの役割が none に設定されているときに LDAP または RADIUS のコマンドが動作しない」 ■ 22 ページの「dnslocatorquery レコードを Active Directory 構成から削除できない」
システムクロック設定に関する解決済みの問題	<ul style="list-style-type: none"> ■ 23 ページの「CLI を使用してタイムゾーンを設定するときに、タイムゾーンによってはクロックが正しく再計算されない (x86 サーバー)」
電源管理に関する解決済みの問題	<ul style="list-style-type: none"> ■ 24 ページの「電源管理プロパティーに関するヘルプテキストが間違っている」

トピックの説明	リンク
スナップショット SP データに関する解決済みの問題	<ul style="list-style-type: none">■ 23 ページの「スナップショットユーティリティでデバッグ用のログファイルが欠落する」
Oracle ILOM バックアップ CLI 機能に関する解決済みの問題	<ul style="list-style-type: none">■ 24 ページの「Oracle ILOM CLI で set /{target}/config dump_uri を実行するときに確認メッセージが表示されない」
CLI のヘルプテキスト機能に関する解決済みの問題	<ul style="list-style-type: none">■ 24 ページの「/sys の読み取り専用プロパティの役割に関するヘルプテキストが間違っている」■ 25 ページの「<TARGET> <property> <property> のヘルプ出力の内容がわかりにくい」■ 26 ページの「/SP/users/root/ssh/key/1-5 のヘルプテキスト値が不正確」
CLI でのシリアルポート設定に関する解決済みの問題	<ul style="list-style-type: none">■ 26 ページの「Oracle ILOM 外部シリアルポートのフロー制御が正しく実装されていない」
CLI 読み取り専用プロパティに関する解決済みの問題	<ul style="list-style-type: none">■ 26 ページの「読み取り専用プロパティの CLI 自動補完機能が Sun Fire X4140、X4240、および X4440 サーバーでは動作しない」

デフォルトの役割が none に設定されているときに LDAP または RADIUS のコマンドが動作しない

CR 6804986

問題: LDAP または RADIUS のデフォルトの役割が none に設定されているときは、本来割り当てられるはずの Read Only (-o) 役割が自動的に割り当てられません。

更新: この問題は Oracle ILOM 3.0.4 リリースで修正されました。現在では、LDAP または RADIUS のデフォルトの役割が none に設定されている状態で LDAP または RADIUS ユーザーとしてログインすると、Read Only (o) 役割が割り当てられます。

dnslocatorquery レコードを Active Directory 構成から削除できない

CR 6797346

問題: Active Directory の構成中に dnslocatorquery レコードを削除できません。

更新: この問題は Oracle ILOM 3.0.4 リリースで修正されました。dnslocatorquery レコードの内容と範囲のルールが緩和され、エントリのクリアや削除ができるようになりました。この結果、エントリを完全に削除するための空の文字列値を入力できるようになりました。

CLI を使用してタイムゾーンを設定するときに、タイムゾーンによってはクロックが正しく再計算されない (x86 サーバー)

CR 6798875

問題: CLI を使用してタイムゾーンを設定するときに、タイムゾーンによっては、クロックが正しく再計算されないか、クロックのタイムゾーン設定が更新されないことがあります。

更新: Oracle ILOM 3.0.4 の時点では、この問題は x86 サーバーに対しては修正済みです。

クロックが正しく再計算されるようにするには、タイムゾーンに有効なグローバルタイムゾーン名を使用する必要があります。有効なグローバルタイムゾーン名の一覧は、インターネット (http://en.wikipedia.org/wiki/List_of_zoneinfo_time_zones など) で検索できます。

例:

- SP クロックのタイムゾーンプロパティ値を米国東部標準時に設定するには、次のように入力します。

```
-> set /SP/clock/ timezone=America/New_York
```

または

- SP クロックのタイムゾーンプロパティ値を米国中部標準時に設定するには、次のように入力します。

```
-> set /SP/clock/ timezone=America/Chicago
```

スナップショットユーティリティーでデバッグ用のログファイルが欠落する

CR 6811375

問題: スナップショットユーティリティーを使用して Service 要員用のデータを収集するときに、/var/log のファイルが欠落していることが原因で、デバッグプロセスが正常に動作しません。

更新: スナップショットユーティリティーの欠落していた `/var/log` ファイルは、Oracle ILOM 3.0.4 リリースで復元されました。

Oracle ILOM CLI で `set /{target}/config dump_uri` を実行するときに確認メッセージが表示されない

CR 6804202

問題: `/{target}/config` に対する `dump_uri` を設定するときに、Oracle ILOM CLI でコマンドが正常に実行されたかどうかを示す確認メッセージが表示されません。

更新: `set /{target}/config dump_uri` の確認メッセージの出力は、Oracle ILOM 3.0.4 リリースで修正されました。

`/SYS` の読み取り専用プロパティの役割に関するヘルプテキストが間違っている

CR 6764923、CR 6770180

問題: `/SYS` の読み取り専用プロパティに関して表示される Oracle ILOM CLI ヘルプのユーザーの役割情報は、誤解を招くおそれがあります。例:

```
-> help /SYS fru_part_number
```

Properties:

```
fru_part_number : FRU part number
```

```
fru_part_number : User role required for set = r
```

ヘルプテキストに表示される、読み取り専用プロパティのユーザーの役割情報は誤解を招くおそれがあります。読み取り専用プロパティは、ユーザーの役割にかかわらず構成することはできません。

更新: Oracle ILOM 3.0.4 で Oracle ILOM ヘルプ機能が更新され、`/SYS` の読み取り専用プロパティ (r) の説明には必須のユーザーの役割の値が表示されないようになりました。

電源管理プロパティに関するヘルプテキストが間違っている

CR 6770180

問題: 次のプロパティは読み取り専用であり、構成は不可能です。したがって、これらのプロパティを表示するために必要な役割は Read Only (o) です。

```
-> help /SP/powermmgmt
```

Properties:

actual_power : Actual power consumed by the system

actual_power : User role required for set = o

permitted_power : Total power permitted for the system

permitted_power : User role required for set = o

available_power : Available power for the system

available_power : User role required for set = o

更新: この問題は Oracle ILOM 3.0.4 リリースで修正されました。これらのプロパティのヘルプテキストには、プロパティを表示するのに必要な役割が Read Only (o) であることが表示されるようになりました。

<TARGET> <property> <property> のヘルプ出力の内容がわかりにくい

CR 6770069

問題: ヘルプ機能を使用して複数のプロパティの値を表示するときに、次のようなわかりにくいテキストが表示されます。

ヘルプの出力が次のように表示されます。

```
-> help /HOST send_break_action boottimeout status
```

Properties:

send_break_action : Send Break Action to Host

send_break_action : Possible values = break, dumpcore

send_break_action : User role required for set = c

boottimeout : Boot time out

send_break_action : Possible values = break, dumpcore

boottimeout : User role required for set = r

status : Host Status

send_break_action : Possible values = break, dumpcore

boottimeout : User role required for set = r

本来は、次のように出力されるべきです。

```
-> help /HOST send_break_action boottimeout status
```

Properties:

send_break_action : Send Break Action to Host

```
send_break_action : Possible values = break, dumpcore
send_break_action : User role required for set = c
boottimeout : Boot time out
boottimeout : User role required for set = r
status : Host Status
```

更新: ヘルプ機能が Oracle ILOM 3.0.4 リリースで更新され、該当しないプロパティ値は表示されなくなりました。

/SP/users/root/ssh/key/1-5 のヘルプテキスト値が不正確

CR 6783032

問題: /SP/users/root/ssh/key/ の下の複数のプロパティのヘルプテキストに不正確な記述があります。

更新: /SP/users/root/ssh/key のヘルプ機能は、Oracle ILOM 3.0.4 リリースで修正されました。

Oracle ILOM 外部シリアルポートのフロー制御が正しく実装されていない

CR 6822067

問題: Oracle ILOM の外部シリアルポートのフロー制御に対する書き込み可能のサポート (set コマンドを使用) が有効になるのは、Oracle の AST2000 サーバーベースのプラットフォーム上のみです。

更新: Oracle ILOM 3.0.4 の時点では、Oracle ILOM の外部シリアルポートのフロー制御に対する書き込み可能のサポートは、Oracle のすべてのプラットフォーム上で有効です。

読み取り専用プロパティの CLI 自動補完機能が Sun Fire X4140、X4240、および X4440 サーバーでは動作しない

CR 6729108

問題: Oracle ILOM CLI で show コマンドを実行するときに、読み取り専用プロパティが認識されません。

更新: show コマンドの実行時に読み取り専用プロパティを認識するためのサポートが Oracle ILOM 3.0.4 リリースで追加されました。

Oracle ILOM 3.0.4 の時点で既知の問題

このセクションでは、Oracle ILOM 3.0.4 の時点で既知となっている問題について説明します。各問題に固有の変更リクエスト (Change Request、CR) ID 番号と回避方法が存在する場合は、あわせて示します。

トピックの説明	リンク
Oracle ILOM リモートコンソールに関する既知の問題	<ul style="list-style-type: none">27 ページの「CD-ROM イメージやフロッピーイメージをリダイレクトするときに、Windows クライアントで Oracle ILOM リモートコンソールがハングアップすることがある」28 ページの「Oracle ILOM リモートコンソールのセッションを回復できない」

CD-ROM イメージやフロッピーイメージをリダイレクトするときに、Windows クライアントで Oracle ILOM リモートコンソールがハングアップすることがある

CR 6806444

問題: Windows クライアントを使用して CD-ROM イメージまたはフロッピーイメージを Oracle ILOM リモートコンソールからリダイレクトするときに、Oracle ILOM リモートコンソールが応答しなくなることがあります。

影響を受けるソフトウェア:

- Oracle ILOM 2.0 以降および Oracle ILOM 3.0 以降
- Oracle ILOM リモートコンソール
- JDK 1.6
- クライアントシステムにインストールされている Windows オペレーティングシステム。

回避方法: Windows クライアントで「Oracle ILOM Remote Console」ウィンドウを閉じ、次の操作のいずれかを実行します。

- Linux または Solaris クライアントを使用して Oracle ILOM リモートコンソールを起動し、CD-ROM イメージまたはフロッピーイメージをリダイレクトします。

または

- Windows、Solaris、またはLinux のクライアントを使用し、Oracle ILOM 3.0 の Storage Redirection ユーティリティを起動して CD-ROM イメージまたはフロッピーイメージをリダイレクトします。

注 - Storage Redirection ユーティリティは、Oracle ILOM 3.0 のみに含まれているコマンド行ユーティリティです。Storage Redirection ユーティリティの使用方法については、Oracle ILOM 3.0 のドキュメントセットを参照してください。

Oracle ILOM リモートコンソールのセッションを回復できない

CR 6867870

問題: 次の場合に、Oracle ILOM リモートコンソールのセッションを回復できないことがあります。

- Oracle ILOM リモートコンソールクライアントで複数のタブを開き、3つの異なるホストへの接続が表示されているときに、Oracle ILOM リモートコンソールクライアントの状態が休眠モードになる (またはネットワークケーブルが取り外される)。



- 第2および第3のOracle ILOM リモートコンソールクライアントから、同じ3つのホストへの接続が確立された状態で、これらのリモートコンソールクライアントも休眠モードになる (またはネットワークケーブルが取り外される)。

Oracle ILOM リモートコンソールクライアントの1つ (またはそれ以上) が休眠モードから復帰する (またはネットワークケーブルが再接続される) が、アクティブでないセッションを再開することができず、次の状態になる。

- システムダイアログに、「Connection with SP is down, try redirection later.」というメッセージが表示されます。「OK」をクリックしてそのダイアログを閉じます。
- 2つ目のダイアログに、「The maximum number of connections have been reached.」というメッセージが表示されます。「OK」をクリックしてそのダイアログを閉じます。

回避方法: 最初の2つのホストに対するアクティブでない Oracle ILOM リモートコンソールセッションを回復するには、両方のシステム上で SP をリセットする (reset /SP) 必要があります。3番目のホストでは、アクティブでない Oracle ILOM リモートコンソールセッションは通常、最初の2つのホストの SP がリセットされてから5分以内に回復します。ただし、3番目の Oracle ILOM リモートコンソールクライアントが休止モードまたはスクリーンセーバーモードのときは、3番目のホストに対するアクティブでないリモートコンソールセッションが回復しないことがあります。この状態になったときは、アクティブでない Oracle ILOM リモートコンソールセッションを回復するには3番目のホストの SP をリセットする必要があります。Oracle ILOM リモートコンソールがサポートするユーザーセッション接続の数は、1つのホストシステムに対して3つまでです。

Oracle ILOM 3.0.6 ファームウェアに対する更新

この章では、Oracle ILOM 3.0.6 ファームウェアリリースで追加された新しい機能について説明します。新しい機能を実装する手順を説明します。解決済みおよび既知の問題についても説明します。さらに、新しい機能を詳しく説明した、Oracle ILOM 3.0 ドキュメントの参照先も示しています。

この章には、次のトピックが含まれています。

- 31 ページの「Oracle ILOM 3.0.6 の新機能」
- 32 ページの「Oracle ILOM 3.0.6 の時点で解決済みの問題」
- 33 ページの「Oracle ILOM 3.0.6 の時点で既知の問題」

Oracle ILOM 3.0.6 の新機能

次の表に、Oracle ILOM 3.0.6 リリースで利用できる新機能を記載します。Oracle ILOM 3.0 ドキュメントセットで各機能の説明が記載されているガイドも参照先として示しています。

トピックの説明	参照先
HDD および RAID の構成のための新しいストレージ監視プロパティ	<ul style="list-style-type: none">■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - 概念ガイド』の「ストレージ監視およびゾーン管理」■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - CLI 手順ガイド』の「ストレージコンポーネントおよび Zone Manager の監視」

トピックの説明	参照先
電源管理に関する拡張	<ul style="list-style-type: none"> 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - 概念ガイド』の「ハードウェアインタフェースの電力の監視および管理」 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - CLI 手順ガイド』の「電力監視およびハードウェアインタフェースの管理」 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - Web 手順ガイド』の「電力監視およびハードウェアインタフェースの管理」
新しい root パスワード警告メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - 概念ガイド』の「Oracle ILOM の概要」
Oracle ILOM で使用されるネットワークポートの一覧の更新	<ul style="list-style-type: none"> 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - 概念ガイド』の「ネットワーク設定」

Oracle ILOM 3.0.6 の時点で解決済みの問題

このセクションでは、Oracle ILOM 3.0.6 の時点で解決済みの問題について説明します。解決済みの各問題に固有の変更リクエスト (CR) ID 番号が存在する場合は、あわせて示します。

トピックの説明	リンク
SMTP テスト電子メール通知の予期しない動作	<ul style="list-style-type: none"> 32 ページの「SMTP テスト警告電子メール通知を送信できない」
CMM からブレードへの予期しないドリルダウン動作	<ul style="list-style-type: none"> 33 ページの「SSH の無効化後に CMM からサーバーモジュールにナビゲートできない」
電源管理イベントの予期しない動作	<ul style="list-style-type: none"> 33 ページの「電源管理イベントがログファイルに記録されない」

SMTP テスト警告電子メール通知を送信できない

CR 6850298

問題: SMTP ページで「Test」をクリックしたあとに、テスト電子メール通知が送信されず、このイベントに対応するエントリがイベントログにありません。

更新: この問題は、Oracle ILOM 3.0.6 の時点で解決済みです。

SSH の無効化後に CMM からサーバーモジュールにナビゲートできない

CR 6837359

問題: サーバーモジュール上で SSH を無効にしたあとで、そのサーバーモジュールに CMM からナビゲートすることができません。

更新: この問題は、Oracle ILOM 3.0.6 の時点で解決済みです。

電源管理イベントがログファイルに記録されない

CR 6831492

問題: 電源管理のしきい値を超えてもイベントがトリガーされません。

更新: この問題は、Oracle ILOM 3.0.6 の時点で解決済みです。

Oracle ILOM 3.0.6 の時点で既知の問題

このセクションでは、Oracle ILOM 3.0.6 の時点で既知となっている問題について説明します。各問題に固有の変更リクエスト (Change Request、CR) ID 番号と回避方法が存在する場合は、あわせて示します。

トピックの説明	リンク
Oracle ILOM Web インタフェースに関する既知の問題	<ul style="list-style-type: none"> ■ 34 ページの「Oracle ILOM ファームウェアを 2.0 から 3.0 にアップグレードしたあとでホスト電源状態を取得できない」 ■ 34 ページの「構成後のアクセスページエラー: システムを IPMITool から監視するときに不明なセンサー LED ステータスが表示される」
IPMI インタフェースに関する既知の問題	<ul style="list-style-type: none"> ■ 34 ページの「構成後のアクセスページエラー: システムを IPMITool から監視するときに不明なセンサー LED ステータスが表示される」
バックアップと復元に関する既知の問題	<ul style="list-style-type: none"> ■ 34 ページの「バックアップと復元の実行後にコンソールエラーが表示される」

Oracle ILOM ファームウェアを 2.0 から 3.0 にアップグレードしたあとでホスト電源状態を取得できない

CR 6858008

問題: SP ファームウェアを Oracle ILOM 2.0 から 3.0 に更新すると、アップグレード完了後は Oracle ILOM Web インタフェースでリモートホストの電源状態を取得できなくなることがあります。この問題が発生した場合は、「Remote Power Control」タブに空白のページが表示されます。

回避方法: 次の操作のいずれかを実行します。

- アップグレードの完了後に、ブラウザのキャッシュをクリアし、ブラウザの表示をリフレッシュします。

または

- Oracle ILOM Web ページのヘッダー領域にある「Refresh」ボタンをクリックしてブラウザキャッシュの問題を修正します。

構成後のアクセスページエラー: システムを IPMItool から監視するとき不明なセンサー LED ステータスが表示される

CR 6848980

問題: IPMItool を使用して Oracle サーバーを監視しているときに、不明なセンサー LED ステータスが Oracle ILOM Web インタフェースに表示されます。この問題が発生する可能性があるのは、SP と IPMI KCS インタフェースが同時にオペレーティングシステム (OS) から実行されているときです。このような構成の結果として、IPMI メッセージが SP にオーバーロードされます。

回避方法: Oracle ILOM Web インタフェースによる IPMI センサーの読み取りに十分な時間を与えるために、ホスト OS への KCS メッセージ応答の頻度を制限します。それには、コマンド `sleep 1` をホスト IPMItool スクリプト内のコマンドの間に挿入します。

バックアップと復元の実行後にコンソールエラーが表示される

CR 6847309

問題: Oracle ILOM 構成のバックアップと復元の実行後に、次のコンソールエラーメッセージが表示されることがあります。

```
bind (udp): Address already in use
```

回避方法: ありません。これは問題のないエラーメッセージです。

Oracle ILOM Power Management で電力を制限している場合、Windows Server 2008 R2 によってシステムイベントログに警告メッセージが生成される

CR 6881284

問題: Oracle ILOM Power Management 機能によって電力が制限されているときに、プロセッサが制限されていることをユーザーに知らせる警告メッセージが Windows Server 2008 R2 オペレーティングシステムのシステムイベントログに出力されます。警告メッセージの例を次に示します。

```
The Speed of Processor xx in group x is being limited by system firmware. The processor has been in this reduced performance state for xxxx seconds since last report.
```

回避方法: ありません。これらは予期されるイベントであり、問題を示すものではありません。

Oracle ILOM 3.0.8 ファームウェアに対する更新

この章では、Oracle ILOM 3.0.8 ファームウェアリリースで追加された新しい機能について説明します。新しい機能を実装する手順を説明します。解決済みおよび既知の問題についても説明します。さらに、新しい機能を詳しく説明した、Oracle ILOM 3.0 ドキュメントの参照先も示しています。

この章には、次のトピックが含まれています。

- 37 ページの「Oracle ILOM 3.0.8 の新機能」
- 39 ページの「Oracle ILOM 3.0.8 の時点で解決済みの問題」
- 40 ページの「Oracle ILOM 3.0.8 の時点で既知の問題」

Oracle ILOM 3.0.8 の新機能

次の表に、Oracle ILOM 3.0.8 リリースで利用できる新機能を記載します。Oracle ILOM 3.0 ドキュメントセットで各機能の説明が記載されているガイドも参照先として示しています。

トピックの説明	参照先
Web インタフェースページの拡張によりシステムサマリー情報と電源投入設定の表示と管理を1つのページで実行可能	■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - Web 手順ガイド』の「Web インタフェースの概要」
SP の新しい電源管理用語と Web レイアウト	■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - 概念ガイド』の「ハードウェアインタフェースの電力の監視および管理」 ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - Web 手順ガイド』の「電力監視およびハードウェアインタフェースの管理」
新しい IPMI 電力上限 (Power Limit) 機能と、次に対応する新しい IPMI 手順	■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 プロトコル管理 - SNMP、IPMI、CIM、WS-MAN ガイド』の「IPMI について」
■ Power Limit 割当量有効化状態の設定	
■ Power Limit 割当量ワット数の取得	
■ Power Limit 割当量ワット数の設定	

トピックの説明	参照先
<p>SNMP 実装に対する新しい電力上限 (Power Limit)</p> <p>詳細については、電源管理データオブジェクトの Hardware Control MIB を参照してください</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 プロトコル管理 - SNMP、IPMI、CIM、WS-MAN ガイド』の「IPMI を使用したサーバー管理」
<p>システムバナーメッセージに関する Oracle ILOM の新機能の追加</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - 概念ガイド』の「Oracle ILOM の概要」 ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - CLI 手順ガイド』の「ILOM のログインとログアウトおよびパスワードの回復」 ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - Web 手順ガイド』の「Oracle ILOM に対するログインとログアウトおよびバナーメッセージの表示」
<p>Oracle ILOM Web インタフェースでのストレージ監視サポートの追加</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - Web 手順ガイド』の「ストレージコンポーネントおよび Zone Manager の監視」
<p>Oracle ILOM で WS-Management と CIM を標準管理インタフェースとしてサポートする新機能の追加</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - 概念ガイド』の「Oracle ILOM の概要」 ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 プロトコル管理 - SNMP、IPMI、CIM、WS-MAN ガイド』の「WS-Management と CIM を使用したサーバー管理」
<p>Oracle ILOM での Oracle x86 サーバーの SP 履歴ログ機能の追加</p> <p>注 - この内容は、Oracle SPARC サーバーにも適用されます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - CLI 手順ガイド』の「システムセンサーの監視とイベントログの管理」
<p>SPARC サーバーに対する新しい TPM 管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - CLI 手順ガイド』の「SPARC サーバーでの TPM と LDom の状態の管理」 ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - Web 手順ガイド』の「SPARC サーバーでの TPM と LDom の状態を管理する」

Oracle ILOM 3.0.8 の時点で解決済みの問題

このセクションでは、Oracle ILOM 3.0.8 リリースで解決済みとなっている問題について説明します。各問題に固有の変更リクエスト (CR) ID 番号と更新が存在する場合は、あわせて示します。

トピックの説明	リンク
CLIでのタイムゾーン設定の問題の解決	<ul style="list-style-type: none"> 39 ページの「Oracle ILOM CLI での無効なタイムゾーン設定」
スナップショットのプロパティがSPのリセット後に保持されない	<ul style="list-style-type: none"> 39 ページの「スナップショットのプロパティがリセット後に保持されない」

Oracle ILOM CLI での無効なタイムゾーン設定

CR 6871128

問題: 不完全なタイムゾーン名も、Oracle ILOM CLI ターゲット SP/clock/timezone として受け入れられていました。タイムゾーン名が不完全な場合、グリニッジ標準時 (GMT) がシステムによって使用される可能性があります。

更新: この問題は Oracle ILOM 3.0.8 リリースで修正されました。Oracle ILOM CLI によって受け入れられて検証されるのは、完全なタイムゾーン名のみです。

スナップショットのプロパティがリセット後に保持されない

問題: CLI を使用してスナップショットのプロパティ値を変更してから SP をリセットすると、スナップショットのプロパティ値がデフォルト値に戻ってしまいます。

更新: Oracle ILOM のスナップショット機能の動作は、設計どおりです。スナップショットのプロパティは、SP のリセット後は保持されません。

Oracle ILOM 3.0.8 の時点で既知の問題

このセクションでは、Oracle ILOM 3.0.8 の時点で既知となっている問題について説明します。各問題に固有の変更リクエスト (Change Request、CR) ID 番号と回避方法が存在する場合は、あわせて示します。

トピックの説明	リンク
Storage Redirection が 64 ビット JRE でサポートされない	<ul style="list-style-type: none"> 40 ページの「Storage Redirection が 64 ビット JRE ではサポートされない」
アップグレードの実行後にストレージ監視デバイスの情報が表示されるまでに時間がかかる	<ul style="list-style-type: none"> 40 ページの「ストレージ監視情報を表示するときに 5 分間の遅延が発生する」
Oracle Hardware Installation Assistant と帯域内管理インタフェースを使用して Oracle ILOM をアップグレードするときに Oracle ILOM のバージョンが表示されない	<ul style="list-style-type: none"> 41 ページの「HIA を使用して Oracle ILOM を帯域内管理インタフェースからアップグレードするときに Oracle ILOM のバージョンが表示されない」

Storage Redirection が 64 ビット JRE ではサポートされない

CR 680070、CR 6805732

問題: 64 ビットの Java Runtime Environment (JRE) を使用していると、Storage Redirection の起動に失敗することがあります。64 ビット JRE は 64 ビットのシステムではデフォルトです。64 ビット JRE を使用して Storage Redirection を起動しようとすると、次のエラーメッセージが表示されます。

"Unsupported platform"

回避方法: 32 ビット JRE を 64 ビットシステムにインストールします。JRE は、<http://java.com/en/download/index.jsp> からダウンロードできます。

ストレージ監視情報を表示するときに 5 分間の遅延が発生する

CR 6870530

問題: Oracle ILOM CLI または Web インタフェースで、ストレージ監視情報が表示されるまでに、または最新の状態に更新されるまでに、最大 5 分間の遅延が発生することがあります。この遅延は一般的に、次のあとに発生します。

- Oracle ILOM 3.0.6 以降にアップグレードし、必須のシステム管理パックをインストールした。

または

- RAID またはディスクの情報が更新されたあとでシステムに対するクエリーを実行した。

注-ストレージ監視機能は、すべての Oracle サーバーで使用できるわけではありません。使用しているサーバーでこの機能がサポートされるかどうかを判断するには、サーバーに対応する Oracle ILOM の補足マニュアルまたは管理ガイドを参照してください。

注-サーバーでストレージ監視機能がサポートされている場合は、ストレージ監視機能を使用する前にシステム管理パックをインストールしておく必要があります。サーバーに必要なシステム管理パックに関する情報については、サーバーに対応する Oracle ILOM の補足マニュアルまたは管理ガイドを参照してください。

回避方法: 回避方法はありません。この 5 分間の遅延が発生するのは、必須のシステム管理パックのインストール後やシステムに対する RAID またはディスクの更新後のみです。

HIA を使用して Oracle ILOM を帯域内管理インタフェースからアップグレードするときに Oracle ILOM のバージョンが表示されない

CR 6867109

問題: Oracle ILOM を Oracle Hardware Installation Assistant (HIA) から帯域内インタフェースを使用してアップグレードするときに、Oracle サーバーによっては、実行中の Oracle ILOM のバージョンが HIA の画面に表示されないことがあります。

回避方法: Oracle ILOM Web インタフェースを使用して実行中の Oracle ILOM のバージョンを判別します。

Oracle ILOM 3.0.9 ファームウェアに対する更新

この章では、Oracle ILOM 3.0.9 ファームウェアリリースで追加された新しい機能について説明します。新しい機能を実装する手順を説明します。解決済みおよび既知の問題についても説明します。さらに、新しい機能を詳しく説明した、Oracle ILOM 3.0 ドキュメントの参照先も示しています。

この章には、次のトピックが含まれています。

- 43 ページの「Oracle ILOM 3.0.9 の新機能」
- 44 ページの「Oracle ILOM 3.0.9 の時点で解決済みの問題」
- 45 ページの「Oracle ILOM 3.0.9 の時点で既知の問題」

Oracle ILOM 3.0.9 の新機能

次の表に、Oracle ILOM 3.0.9 リリースで利用できる新機能を記載します。Oracle ILOM 3.0 ドキュメントセットで各機能の説明が記載されているガイドも参照先として示しています。

トピックの説明	参照先
モジュラーシャーシシステムのコンポーネントファームウェア更新機能の追加	■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) CMM 管理ガイド - Sun Blade 6000/Sun Blade 6048 モジュラーシステム』の「ファームウェアの更新手順」
Sun Fire X4800 システムのコンポーネントファームウェア管理機能の追加	■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 補足マニュアル Sun Fire X4800 サーバー』
Oracle ILOM リモートコンソールでの新しい国際キーボードサポート	■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - 概念ガイド』の「リモートホスト管理」の操作

トピックの説明	参照先
Oracle ILOM CLI および Web インタフェースでの新しいシステム稼働時間表示	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - CLI 手順ガイド』の「CLI コマンドリファレンス」 ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - Web 手順ガイド』の「Web インタフェースの概要」
Microsoft Windows 7 クライアントおよび Internet Explorer 8 クライアントのサポート	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - Web 手順ガイド』の「リモートホストのリダイレクションの管理と Oracle ILOM リモートコンソールのセキュリティー保護」

Oracle ILOM 3.0.9 の時点で解決済みの問題

このセクションでは、Oracle ILOM 3.0.9 リリースで解決済みとなっている問題について説明します。各問題に固有の変更リクエスト (CR) ID 番号と回避方法が存在する場合は、あわせて示します。

トピックの説明	リンク
リモートコンソールに関する解決済みの問題	<ul style="list-style-type: none"> ■ 44 ページの「Oracle ILOM リモートコンソールのセッションを回復できない」

Oracle ILOM リモートコンソールのセッションを回復できない

CR 6867870

問題: Oracle ILOM 3.0.6 より前のバージョンでは、ホストへのアクティブでない Oracle ILOM リモートコンソールセッションを回復するときに問題が発生し、回避方法としてホストサーバー SP のリポートしてセッションを回復することが必要でした。この問題に関する詳しい説明と回避方法は、[28 ページの「Oracle ILOM リモートコンソールのセッションを回復できない」](#) ([19 ページの「Oracle ILOM 3.0.4 ファームウェアに対する更新」](#)の「既知の問題」のセクション)を参照してください

更新: 次のいずれかの Oracle ILOM ファームウェアリリースを同梱している (サポートしている) すべての Oracle サーバーシステムで、SP をリポートしなくてもアクティブでないリモートコンソールセッションを回復できる修正が利用可能です。

- Oracle ILOM 3.0.6

- Oracle ILOM 3.0.8
- Oracle ILOM 3.0.9

サーバーに Oracle ILOM 3.0.6 以降がインストールされている場合は、Oracle ILOM リモートコンソールのアクティブでないセッションを解放および回復するのに最大 5 分間かかることがあります。ただし、ホストサーバーの電源がオフの場合は、Oracle ILOM リモートコンソールセッションの回復に要する時間は約 15 分間となります。Oracle ILOM リモートコンソールセッションの回復に要する時間は、その時点のビデオトラフィックの量によって異なります。次の表は、Oracle ILOM リモートコンソールのセッションの解放と回復に要する時間のガイドラインをまとめたものです。

ビデオ画面トラフィック	リモートコンソールセッションの推定回復時間	コンソールまたはホストのシナリオ
極度に多い (ホストシステムと SP の間のビデオトラフィックが 30K バイト/秒以上)	約 10 秒	リモートコンソールの xterm ウィンドウで「ls -R /」を実行しています
多い(ホストシステムと SP の間で 1K バイト/秒)	約 3 分	リモートコンソールの表示が動的です。たとえば、マウスカーソルが点滅しています。
標準(ホストシステムと SP の間で 500 バイト/秒)	約 5 分	リモートコンソールの表示が静的です。たとえば、キーボードやマウスの操作や、リアルタイムのグラフィカル表示がありません。
少ない(ホストシステムと SP の間で 100 バイト/秒)	約 11 分	リモートコンソールの画面全体が黒または空白です。
非常に少ない(ホストシステムと SP の間で 7 バイト/秒)	約 15 分	ホストの電源がオフになっています。
なし(ホストシステムと SP の間で 0 バイト)	約 6 分	リモートコンソールセッションが一時停止モードになっています(アクティブでないタブ)。

Oracle ILOM 3.0.9 の時点で既知の問題

このセクションでは、Oracle ILOM 3.0.9 の時点で既知となっている問題について説明します。各問題に固有の変更リクエスト (Change Request、CR) ID 番号と回避方法が存在する場合は、あわせて示します。

トピックの説明	リンク
Oracle ILOM の FRU データフィールドの表示が空白になる	■ 46 ページの「SP ファームウェアを 3.0.3 と 3.0.9 の間でダウングレードまたはアップグレードしたあとで DIMM FRU データフィールドが空白になる」
ヘルプコマンドの構文が無効の場合に、役に立たない出力が表示される	■ 46 ページの「無効なヘルプコマンド (help /SP system_contact=test) を実行すると役に立たない出力が表示される」
Web ブラウザのセキュリティー設定が有効になっているとスナップショットユーティリティーで SP のデータを収集できない	■ 47 ページの「IE Web ブラウザのセキュリティーオプションが有効になっているとサービススナップショットユーティリティーで SP のデータを収集できない」

SP ファームウェアを 3.0.3 と 3.0.9 の間でダウングレードまたはアップグレードしたあとで DIMM FRU データフィールドが空白になる

CR 6913593、CR 6850456、CR 6916007

問題: プラットフォームサーバーによっては、Oracle ILOM SP ファームウェアを 3.0.3 と 3.0.9 の間でアップグレードまたはダウングレードするときに「DeLay BIOS Update」オプションを有効にしていると、Oracle ILOM の DIMM FRU データフィールドが空白になることがあります。

回避方法: 次の手順を実行します。

1. Oracle ILOM 3.0.3 と 3.0.9 の間でダウングレードまたはアップグレードを行う前に、ホストの電源を切ります。
2. Oracle ILOM ファームウェアのダウングレードまたはアップグレードを行うときに、ファームウェアのオプション「DeLay BIOS Update」が有効になっていないことを確認します。

無効なヘルプコマンド (help /SP system_contact=test) を実行すると役に立たない出力が表示される

CR 6884556、CR 6923383

問題: 無効な help コマンド、たとえば help /SP system_contact=test を実行すると、役に立たない出力が表示されます。

回避方法: help /SP system_contact の正しい構文を使用します。

IEWebブラウザのセキュリティーオプションが有効になっているとサービススナップショットユーティリティーでSPのデータを収集できない

CR 6877868

問題: Internet Explorer (IE) Webブラウザのセキュリティーオプションのうち、「暗号化されたページをディスクに保存する」が有効になっている場合は、サービススナップショットユーティリティーを使用してSPデータを収集しようとしたときに次のエラーメッセージが表示されます。

Internet Explorer cannot download mdccvm02i - snapshot.cgi?dataset=ioh.Internet Explorer was not able to open this Internet site.The requested site is either unavailable or cannot be found.Please try again later.

回避方法: サービススナップショットユーティリティーを使用してSPデータを収集する前に、Internet Explorer Webブラウザのセキュリティーオプション「暗号化されたページをディスクに保存しない」(「ツール」>「インターネットオプション」>「詳細設定」タブ)を無効にしてください。

Oracle ILOM 3.0.10 ファームウェアに対する更新

この章では、Oracle ILOM 3.0.10 ファームウェアリリースで追加された新しい機能について説明します。新しい機能を実装する手順を説明します。解決済みおよび既知の問題についても説明します。さらに、新しい機能を詳しく説明した、Oracle ILOM 3.0 ドキュメントの参照先も示しています。

この章には、次のトピックが含まれています。

- 49 ページの「Oracle ILOM 3.0.10 の新機能」
- 50 ページの「Oracle ILOM 3.0.10 の時点で解決済みの問題」
- 51 ページの「Oracle ILOM 3.0.10 の時点で既知の問題」

Oracle ILOM 3.0.10 の新機能

次の表に、Oracle ILOM 3.0.10 リリースで利用できる新機能を記載します。Oracle ILOM 3.0 ドキュメントセットで各機能の説明が記載されているガイドも参照先として示しています。

トピックの説明	参照先
電源管理 CMM の用語、Web レイアウト、および CLI プロパティの更新	<ul style="list-style-type: none">■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - 概念ガイド』の「ハードウェアインタフェースの電力の監視および管理」■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - CLI 手順ガイド』の「電力監視およびハードウェアインタフェースの管理」■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - Web 手順ガイド』の「電力監視およびハードウェアインタフェースの管理」
シャーシコンポーネントファームウェアを集中管理するための新しいインタフェース	<ul style="list-style-type: none">■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 保守と診断 - CLI および Web ガイド』の「ファームウェアの更新」

トピックの説明	参照先
新しい SAS-2 ゾーニング管理機能が Oracle ILOM CMM 3.0.10 から使用可能	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - 概念ガイド』の「ストレージ監視およびゾーン管理」 ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - CLI 手順ガイド』の「ストレージコンポーネントおよび Zone Manager の監視」 ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - Web 手順ガイド』の「ストレージコンポーネントおよび Zone Manager の監視」
CMM またはブレードに固有の CMM CLI プロンプトを作成可能	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - CLI 手順ガイド』の「CLI の概要」

Oracle ILOM 3.0.10 の時点で解決済みの問題

このセクションでは、Oracle ILOM 3.0.10 リリースで解決済みとなっている問題について説明します。各問題に固有の変更リクエスト (CR) ID 番号と回避方法が存在する場合は、あわせて示します。

トピックの説明	リンク
無効な CLI help コマンド構文に対する表示出力の修正	<ul style="list-style-type: none"> ■ 50 ページの「無効なヘルプコマンド (help /SP system_contact=test) を実行すると役に立たない出力が表示される」
IPMItool sunoem CLI に対して force オプションを使用可能	<ul style="list-style-type: none"> ■ 51 ページの「IPMItool sunoem CLI はすべてのセッションスロットがビジーのときに拒否されることがある」

無効なヘルプコマンド (help /SP system_contact=test) を実行すると役に立たない出力が表示される

CR 6884556

問題: 無効な CLI help コマンド、たとえば help /SP system_contact=test を実行すると、役に立たない出力が表示されます。

更新: CLI help 機能は Oracle ILOM 3.0.10 で更新されました。CLI で help コマンドに対して無効な構文を入力すると、次のメッセージと使い方の情報が表示されます。

```
help: Invalid command syntax Usage: help [-o|-output terse|verbose]
[<command>|legal|targets|<target>|<target> <property>]
```

IPMItool sunoem CLI はすべてのセッションスロットがビジーのときに拒否されることがある

CR 6884556

問題: IPMItool sunoem CLI が、すべてのセッションスロットがビジーのようであるという理由で拒否されることがあります。

更新: IPMItool sunoem CLI は Oracle ILOM 3.0.10 で修正され、force コマンドが追加されました。このコマンドは、新しいセッションを起動できるように、その時点で実行中の IPMI sunoem CLI セッションを閉じます。force コマンドを実行するには、force という単語を引数として指定して CLI を起動します。

例:

```
ipmitool -I open sunoem cli force version
```

Oracle ILOM 3.0.10 の時点で既知の問題

このセクションでは、Oracle ILOM 3.0.10 の時点で既知となっている問題について説明します。各問題に固有の変更リクエスト (Change Request、CR) ID 番号と回避方法が存在する場合は、あわせて示します。

トピックの説明	リンク
DVD コンテンツを Solaris クライアントリダイレクトから見るできない	<ul style="list-style-type: none"> 52 ページの「Solaris クライアントから RHEL ホストへの DVD リダイレクトで手動マウントが必要になる」
64 ビット JDK の使用時は Oracle ILOM CLI Storage Redirection の起動に失敗する	<ul style="list-style-type: none"> 52 ページの「Storage Redirection CLI サービスを正常に起動するには 32 ビット JDK が必要」
64 ビット JDK の使用時は Oracle ILOM リモートコンソールの起動に失敗する	<ul style="list-style-type: none"> 54 ページの「Oracle ILOM リモートコンソールを正常に起動するには 32 ビット JDK が必要」
Internet Explorer 6 で Oracle ILOM 3.0 Web インタフェースを起動できない	<ul style="list-style-type: none"> 56 ページの「Internet Explorer 6 を使用しているときに Oracle ILOM Web インタフェースから SP に接続できない」

Solaris クライアントから RHEL ホストへの DVD リダイレクトで手動マウントが必要になる

CR 6876387

問題: DVD (物理ドライブまたはイメージファイル) を Oracle Solaris から Red Hat Enterprise Linux (RHEL) にリダイレクトするとき、フロッピーと CD-ROM のアイコンは RHEL に表示されますが、CD-ROM アイコンをクリックしても DVD の内容を見ることができません。

更新: DVD の内容を見るには、DVD デバイスを手動でマウントする必要があります。次の手順を使用して、DVD を手動でマウントします。

▼ DVD デバイスを手動でマウントする

- 1 `lsscsi` コマンドを使用して DVD のデバイス名を調べます。

たとえば、`lsscsi` の出力は次のようになります。

```
[5:0:0:0] cd/dvd AMI Virtual CDROM 1.00 /dev/scd1
```

この例のデバイス名: `/dev/scd1`

- 2 マウントポイントとなる新しいディレクトリを作成するか、既存のディレクトリを使用します。

例:

```
/mnt
```

- 3 DVD デバイスをマウントします。

例:

```
# mount /dev/scd1 /mnt
```

```
mount: block device /dev/scd1 is write-protected, mounting read-only
```

DVD の内容は `/mnt` の下に表示されます。

Storage Redirection CLI サービスを正常に起動するには 32 ビット JDK が必要

CR 6938720

問題: Oracle ILOM の Storage Redirection CLI 機能のサービスを起動するとき、64 ビットの JDK ファイルタイプが指定されているとサービスの起動に失敗します。

回避方法: 32 ビットの JDK ファイルタイプを指定して Storage Redirection サービスを起動します。FireFox Web ブラウザまたは Internet Explorer Web ブラウザの使用時に 32 ビット JDK ファイルタイプを指定する手順は次のとおりです。

▼ Firefox Web ブラウザを使用して Storage Redirection サービスを起動するには 32 ビットの JDK ファイルを指定する

- 1 Oracle ILOM Web ブラウザで、Storage Redirection サービスを起動します。
たとえば、「Remote Console」 > 「Redirection」をクリックし、「Launch Redirection」ページの「Launch Service」をクリックします。

注 - Storage Redirection サービスの起動方法の詳細については、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 リモートリダイレクションコンソール - CLI および Web ガイド』の「Oracle ILOM Storage Redirection CLI をはじめて使用する場合はセットアップ」を参照してください。

- サービスを起動するために選択されたファイルの種類を示すダイアログが表示されます。
- 2 このダイアログで次を実行します。
 - a. 「Open with...」をクリックして 32 ビット JDK ファイルを指定します。
 - b. 「Do this automatically for files like this from now on」チェックボックスを選択します。

▼ Internet Explorer Web ブラウザを使用して Storage Redirection サービスを起動するには 32 ビットの JDK ファイルを指定する

注 - Oracle ILOM の Storage Redirection CLI 機能を起動する前に、次の手順を実行します。ここに示した手順は、Windows エクスプローラーを使用して、Oracle ILOM の Storage Redirection サービスに対して 32 ビット JDK ファイルタイプを登録する方法の説明です。

- 1 Windows クライアントで、Windows エクスプローラー (Internet Explorer ではありません) を開きます。
- 2 Windows エクスプローラーダイアログで、「ツール」 > 「フォルダーオプション」を選択し、「ファイルの種類」タブを選択します。

- 3 「ファイルの種類」タブで、次を実行します。
 - a. 「登録されているファイルの種類」リストで「JNLP」ファイルの種類を選択し、「変更」をクリックします。
 - b. 「ファイルを開くプログラムの選択」ダイアログの「参照」をクリックして、32 ビット JDK ファイルを選択します。
 - c. 「この種類のファイルを開くときは、選択したプログラムをいつも使う」チェックボックスを選択します。
 - d. 「OK」をクリックし、Oracle ILOM Web インタフェースで Storage Redirection 用のサービスを起動します。

詳細は、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 リモートリダイレクションコンソール - CLI および Web ガイド』の「Oracle ILOM Storage Redirection CLI をはじめて使用する場合はセットアップ」を参照してください。

Oracle ILOM リモートコンソールを正常に起動するには 32 ビット JDK が必要

CR 6938720

問題: 64 ビット JDK ファイルタイプが Web ブラウザで指定されていると、Oracle ILOM リモートコンソール機能の起動に失敗します。

回避方法: 32 ビットの JDK ファイルタイプを指定して Oracle ILOM リモートコンソールを起動します。FireFox Web ブラウザまたは Internet Explorer Web ブラウザの使用時に 32 ビット JDK ファイルタイプを指定する手順は次のとおりです。

▼ Firefox Web ブラウザを使用して Oracle ILOM リモートコンソールを起動するには 32 ビットの JDK ファイルを指定する

- 1 Oracle ILOM Web ブラウザで、Oracle ILOM リモートコンソールを起動します。

たとえば、「Remote Console」 > 「Redirection」をクリックし、「Launch Redirection」ページの「Launch Remote Console」をクリックします。

注 - Oracle ILOM リモートコンソールを起動する方法については、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 リモートリダイレクションコンソール - CLI および Web ガイド』の「Oracle ILOM リモートコンソールの起動および KVMS デバイスのリダイレクト」を参照してください。

- プログラム起動用に選択されているファイルタイプを示すダイアログが表示されます。
- 2 このダイアログで次を実行します。
 - a. 「Open with...」をクリックして 32 ビット JDK ファイルを指定します。
 - b. 「Do this automatically for files like this from now on」チェックボックスを選択します。

▼ **Internet Explorer Web** ブラウザを使用して **Oracle ILOM** リモートコンソールを起動するには **32** ビットの **JDK** ファイルを指定する

注 - 次の手順を、Oracle ILOM で **Oracle ILOM** リモートコンソール機能を起動する前に実行します。ここに示した手順は、Windows エクスプローラーを使用して、Oracle ILOM の Oracle ILOM リモートコンソール機能のための 32 ビット JDK ファイルタイプを登録する方法の説明です。

- 1 **Windows** クライアントで、**Windows** エクスプローラー (**Internet Explorer** ではありません)を開きます。
- 2 **Windows** エクスプローラーダイアログで、「ツール」 > 「フォルダー オプション」を選択し、「ファイルの種類」タブを選択します。
- 3 「ファイルの種類」タブで、次を実行します。
 - a. 「登録されているファイルの種類」リストで「JNLP」ファイルの種類を選択し、「変更」をクリックします。
 - b. 「ファイルを開くプログラムの選択」ダイアログの「参照」をクリックして、**32** ビット **JDK** ファイルを選択します。
 - c. 「この種類のファイルを開くときは、選択したプログラムをいつも使う」チェックボックスを選択します。
 - d. 「OK」をクリックし、**Oracle ILOM Web** インタフェースで **Storage Redirection** 用のサービスを起動します。

詳細は、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 リモートリダイレクションコンソール - CLI および Web ガイド』の「Oracle ILOM リモートコンソールの起動および KVMS デバイスのリダイレクト」を参照してください。

Internet Explorer 6 を使用しているときに Oracle ILOM Web インタフェースから SP に接続できない

CR 6934155

問題: Oracle ILOM での SSL セキュリティーが強化されたため、Internet Explorer (IE) 6 では HTTPS 経由で Oracle ILOM SP Web インタフェースを起動することができません。

回避方法: 次のいずれかを実行します。

- Internet Explorer を新しいバージョンにアップグレードしてから Oracle ILOM SP Web インタフェースを起動します。
- 別の Web ブラウザ、たとえば Firefox 2.0 を使用して Oracle ILOM SP Web インタフェースを起動します。
- Oracle ILOM SP CLI で `weak_ciphers` 設定を有効にしてから、IE 6 を使用して Oracle ILOM SP Web インタフェースを起動します。

Oracle ILOM CLI で `weak_ciphers` の設定を有効にするには、次を入力します。

```
-> set /SP/services/https weak_ciphers=enabled
```

- IE 6 から HTTP 経由で Oracle ILOM SP Web インタフェースを起動する。

IE 6 から HTTP 経由で Oracle ILOM SP Web インタフェースを起動するには、最初に、Oracle ILOM SP CLI で HTTP を有効にし、リダイレクトを無効にする必要があります。

Oracle ILOM SP CLI で HTTP を有効にし、リダイレクトを無効にするには、次を入力します。

```
-> set /SP/services/http secureredirect=disabled servicestate=enabled
```

Oracle ILOM 3.0.12 および Oracle ILOM 3.0.14 ファームウェアに対する更新

この章では、Oracle ILOM 3.0.12 および Oracle ILOM 3.0.14 のファームウェアリリースで追加された新しい機能について説明します。新しい機能を実装する手順を説明します。解決済みおよび既知の問題についても説明します。さらに、新しい機能を詳しく説明した、Oracle ILOM 3.0 ドキュメントの参照先も示しています。

この章には、次のトピックが含まれています。

- 57 ページの「Oracle ILOM 3.0.12 および Oracle ILOM 3.0.14 の新機能」
- 58 ページの「Oracle ILOM 3.0.14 の時点で解決済みの問題」
- 65 ページの「Oracle ILOM 3.0.12 の時点で既知の問題」

Oracle ILOM 3.0.12 および Oracle ILOM 3.0.14 の新機能

次の表に、Oracle ILOM 3.0.12 および Oracle ILOM 3.0.14 の各リリースで利用できる新機能を記載します。Oracle ILOM 3.0 ドキュメントセットで各機能の説明が記載されているガイドも参照先として示しています。

トピックの説明	参照先
Oracle ILOM 3.0.12 から、IPv4 および IPv6 のネットワーク環境で Oracle ILOM を完全に動作させる新しいデュアルスタック IPv4/IPv6 設定が提供されています。	<ul style="list-style-type: none">■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - 概念ガイド』の「ネットワーク設定」■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - CLI 手順ガイド』の「ネットワーク設定の構成」■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - Web 手順ガイド』の「ネットワーク設定を構成する」

トピックの説明	参照先
Oracle ILOM 3.0.14 から、SPARC サーバーの LDom 構成を表示および管理するための新しい Oracle ILOM CLI/Web インタフェースが提供されています。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - 概念ガイド』の「リモートホスト管理」の操作 ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - CLI 手順ガイド』の「SPARC サーバーでの TPM と LDom の状態の管理」 ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - Web 手順ガイド』の「SPARC サーバーでの TPM と LDom の状態を管理する」
Oracle ILOM 3.0.12 から、サーバーへのネットワーク管理 (NET MGT) 接続を使用せずに、ホスト OS からローカルで Oracle ILOM と通信できるようにする新しい通信チャンネル「ローカル相互接続インタフェース」が提供されています	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - 概念ガイド』の「ネットワーク設定」 ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - CLI 手順ガイド』の「ネットワーク設定の構成」 ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - Web 手順ガイド』の「ネットワーク設定を構成する」
Oracle ILOM 3.0.14 から、Oracle Sun でサポートされる CIM クラスの名前が Sun_xxx から Oracle_xxx に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 プロトコル管理 - SNMP、IPMI、CIM、WS-MAN ガイド』の「Oracle Sun でサポートされる CIM クラス」

Oracle ILOM 3.0.14 の時点で解決済みの問題

このセクションでは、Oracle ILOM 3.0.14 リリースの時点で解決済みになっている問題について説明します。各問題に固有の変更リクエスト (CR) ID 番号と更新が存在する場合は、あわせて示します。

トピックの説明	リンク
BIOS アップグレードが遅延される	<ul style="list-style-type: none"> ■ 60 ページの「SP のレポート後、BIOS アップグレードが遅延される」
外部シリアルポート設定がリセットされない	<ul style="list-style-type: none"> ■ 60 ページの「外部シリアルポート設定がデフォルト値にリセットされない」
1 時間平均消費電力に 1 時間未満の増加分が反映されていない	<ul style="list-style-type: none"> ■ 60 ページの「1 時間ごとの平均電力のタイムスタンプに 1 時間未満の増加分が反映されない」

トピックの説明	リンク
Windows クライアント上で Oracle ILOM リモートコンソールがハングアップすることがある	<ul style="list-style-type: none"> ■ 61 ページの「CD-ROM イメージやフロッピーイメージをリダイレクトするときに、Windows クライアントで Oracle ILOM リモートコンソールがハングアップすることがある」
Oracle ILOM ファームウェアのアップグレード後にホスト電源状態を取得できない	<ul style="list-style-type: none"> ■ 61 ページの「Oracle ILOM ファームウェアを 2.0 から 3.0 にアップグレードしたあとでホスト電源状態を取得できない」
構成後にアクセスページエラーが表示される: 不明なセンサー LED ステータス	<ul style="list-style-type: none"> ■ 61 ページの「構成後のアクセスページエラー: システムを IPMITool から監視するときに不明なセンサー LED ステータスが表示される」
バックアップおよび復元後にコンソールエラーが表示される	<ul style="list-style-type: none"> ■ 62 ページの「バックアップと復元の実行後にコンソールエラーが表示される」
Windows Server 2008 R2 のシステムイベントログに警告メッセージが出力される	<ul style="list-style-type: none"> ■ 62 ページの「Oracle ILOM Power Management で電力を制限している場合、Windows Server 2008 R2 によってシステムイベントログに警告メッセージが生成される」
ストレージ監視情報を表示するときに 5 分間の遅延が発生することがある	<ul style="list-style-type: none"> ■ 62 ページの「ストレージ監視情報を表示するときに 5 分間の遅延が発生する」
HIA を使用して Oracle ILOM をアップグレードするときに Oracle ILOM のバージョンが表示されない	<ul style="list-style-type: none"> ■ 63 ページの「HIA を使用して Oracle ILOM を帯域内管理インタフェースからアップグレードするときに Oracle ILOM のバージョンが表示されない」
SP ファームウェアのダウングレードまたはアップグレード後に DIMM FRU データフィールドが空白になる	<ul style="list-style-type: none"> ■ 63 ページの「SP ファームウェアを 3.0.3 と 3.0.9 の間でダウングレードまたはアップグレードしたあとで DIMM FRU データフィールドが空白になる」
IE Web ブラウザを使用しているときはサービススナップショットユーティリティで SP データを収集できない	<ul style="list-style-type: none"> ■ 64 ページの「IE Web ブラウザのセキュリティーオプションが有効になっているとサービススナップショットユーティリティで SP のデータを収集できない」
64 ビット JDK の使用時は Oracle ILOM CLI Storage Redirection の起動に失敗する	<ul style="list-style-type: none"> ■ 64 ページの「Storage Redirection には 32 ビット JDK が必要であることを説明するドキュメントの更新」
64 ビット JDK の使用時は Oracle ILOM リモートコンソールの起動に失敗する	<ul style="list-style-type: none"> ■ 64 ページの「Oracle ILOM リモートコンソールには 32 ビット JDK が必要であることを説明するドキュメントの更新」

トピックの説明	リンク
DVDリダイレクトに手動マウントが必要になる	■ 65 ページの「Solaris クライアントから RHEL ホストへの DVD リダイレクトで手動マウントが必要になる」
IE 6 を使用しているときは Oracle ILOM Web インタフェースから SP に接続できない	■ 65 ページの「Internet Explorer 6 を使用しているときに Oracle ILOM Web インタフェースから SP に接続できない」

SPのリポート後、BIOSアップグレードが遅延される

CR 6813514

問題: SP ファームウェアをアップグレードするときに、BIOS ファームウェアをすぐにアップグレードするか、BIOS アップグレードをあとで行うかを選択できます。BIOS をすぐにアップグレードすることを選択した場合は、SP ファームウェアがアップグレードされ、ホストの電源が強制的にオフになり、SP がリポートします。BIOS アップグレードをあとで行うことを選択した場合は、SP ファームウェアがアップグレードされて SP がリポートします。

更新: この問題は予期されるとおりのシステム動作であり、修正は行われません。回避方法については、16 ページの「SPのリポート後、BIOSアップグレードが遅延される」を参照してください。

外部シリアルポート設定がデフォルト値にリセットされない

CR 6676339

問題: `reset_to_defaults` コマンドを使用すると Oracle ILOM 構成をデフォルト値にリセットできません。ただし、外部シリアルポート設定は `reset_to_defaults` 操作の実行時にリセットされません。

更新: シリアルポート設定は、`reset_to_defaults` 操作の実行時に出荷時のデフォルトである 9600 ボーレートに戻されるようになりました。

1 時間ごとの平均電力のタイムスタンプに 1 時間未満の増加分が反映されない

CR 6803961

問題: CLI を使用して CMM にログインしたときに、1 時間ごとの電力履歴の中にタイムスタンプが 1 時間進んだ時間になっているものがあります。このエントリは、前回のタイムスタンプから現在までの平均電力を表しています。

更新: この問題は予期されるとおりのシステム動作であり、修正は行われません。この問題に対する回避方法はありません。

CD-ROM イメージやフロッピーイメージをリダイレクトするときに、Windows クライアントで Oracle ILOM リモートコンソールがハングアップすることがある

CR 6806444

問題: Windows クライアントを使用して CD-ROM イメージまたはフロッピーイメージを Oracle ILOM リモートコンソールからリダイレクトするときに、Oracle ILOM リモートコンソールが応答しなくなることがあります。

更新: この問題は修正済みです。

Oracle ILOM ファームウェアを 2.0 から 3.0 にアップグレードしたあとでホスト電源状態を取得できない

CR 6858008

問題: SP ファームウェアを Oracle ILOM 2.0 から 3.0 に更新すると、アップグレード完了後は Oracle ILOM Web インタフェースでリモートホストの電源状態を取得できなくなることがあります。この問題が発生した場合は、「Remote Power Control」タブに空白のページが表示されます。

更新: この問題は予期されるとおりのシステム動作であり、修正は行われません。回避方法については、34 ページの「[Oracle ILOM ファームウェアを 2.0 から 3.0 にアップグレードしたあとでホスト電源状態を取得できない](#)」を参照してください。

構成後のアクセスページエラー:システムを IPMItool から監視するときに不明なセンサー LED ステータスが表示される

CR 6848980

問題: IPMItool を使用して Oracle サーバーを監視しているときに、不明なセンサー LED ステータスが Oracle ILOM Web インタフェースに表示されます。この問題が発生する可能性があるのは、SP と IPMI KCS インタフェースが同時にオペレーティングシステム (OS) から実行されているときです。このような構成の結果として、IPMI メッセージが SP にオーバーロードされます。

更新: これは報告済みであり、Oracle ILOM 3.0.6 で修正されました。

バックアップと復元の実行後にコンソールエラーが表示される

CR 6847309

問題: Oracle ILOM 構成のバックアップと復元の実行後に、次のコンソールエラーメッセージが表示されることがあります。

```
bind (udp): Address already in use
```

更新: これは Oracle ILOM 3.0.6 の既知の問題として報告済みです。これは問題のないエラーメッセージであり、Oracle ILOM 3.0.10 では再現されなくなりました。

Oracle ILOM Power Management で電力を制限している場合、Windows Server 2008 R2 によってシステムイベントログに警告メッセージが生成される

CR 6881284

問題: Oracle ILOM Power Management 機能によって電力が制限されているときに、プロセッサが制限されていることをユーザーに知らせる警告メッセージが Windows Server 2008 R2 オペレーティングシステムのシステムイベントログに出力されます。

更新: この問題は予期されるとおりのシステム動作であり、修正は行われません。この問題に対する回避方法はありません。

ストレージ監視情報を表示するときに 5 分間の遅延が発生する

CR 6870530

問題: Oracle ILOM CLI または Web インタフェースで、ストレージ監視情報が表示されるまでに、または最新の状態に更新されるまでに、最大 5 分間の遅延が発生することがあります。この遅延は一般的に、次のあとに発生します。

- Oracle ILOM 3.0.6 以降にアップグレードし、必須のシステム管理パックをインストールした。

または

- RAID またはディスクの情報が更新されたあとでシステムに対するクエリーを実行した。

更新: この問題は予期されるとおりのシステム動作であり、修正は行われません。この 5 分間の遅延が発生するのは、必須のシステム管理パックのインストール後やシステムに対する RAID またはディスクの更新後のみです。

HIA を使用して Oracle ILOM を帯域内管理インタフェースからアップグレードするときに Oracle ILOM のバージョンが表示されない

CR 6867109

問題: Oracle ILOM を Oracle Hardware Installation Assistant (HIA) から帯域内インタフェースを使用してアップグレードするときに、Oracle サーバーによっては、実行中の Oracle ILOM のバージョンが HIA の画面に表示されないことがあります。

更新: この問題は予期されるとおりのシステム動作であり、修正は行われません。Oracle ILOM Web インタフェースを使用して実行中の Oracle ILOM のバージョンを判別します。

SP ファームウェアを 3.0.3 と 3.0.9 の間でダウングレードまたはアップグレードしたあとで DIMM FRU データフィールドが空白になる

CR 6913593、CR 6850456、CR 6916007

問題: プラットフォームサーバーによっては、Oracle ILOM SP ファームウェアを 3.0.3 と 3.0.9 の間でアップグレードまたはダウングレードするときに「Delay BIOS Update」オプションを有効にしていると、Oracle ILOM の DIMM FRU データフィールドが空白になることがあります。

更新: これは Oracle ILOM 3.0.9 の既知の問題として報告済みです。この問題は Oracle ILOM 3.0.9 の時点で修正されており、回避方法の手順が『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 機能更新およびリリースノート』に追加されています。回避方法については、46 ページの「SP ファームウェアを 3.0.3 と 3.0.9 の間でダウングレードまたはアップグレードしたあとで DIMM FRU データフィールドが空白になる」を参照してください

IE Web ブラウザのセキュリティーオプションが有効になっているとサービススナップショットユーティリティーで SP のデータを収集できない

CR 6877868

問題: Internet Explorer (IE) Web ブラウザのセキュリティーオプションのうち、「暗号化されたページをディスクに保存しない」が有効になっている場合は、サービススナップショットユーティリティーを使用して SP データを収集しようとしたときにエラーメッセージが表示されます。

更新: これは Oracle ILOM 3.0.9 の既知の問題として報告済みです。この問題は Oracle ILOM 3.0.9 の時点で修正されており、回避方法の手順が『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 機能更新およびリリースノート』に追加されています。回避方法については、47 ページの「IE Web ブラウザのセキュリティーオプションが有効になっているとサービススナップショットユーティリティーで SP のデータを収集できない」を参照してください。

Storage Redirection には 32 ビット JDK が必要であることを説明するドキュメントの更新

CR 6938720

問題: Oracle ILOM の Storage Redirection CLI 機能のサービスを起動するときに、64 ビットの JDK ファイルタイプが指定されているとサービスの起動に失敗します。

更新: 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - CLI 手順ガイド』に追加された手順の中で、Firefox Web ブラウザまたは Internet Explorer Web ブラウザの使用時に 32 ビットの JDK ファイルを指定するようユーザーに指示しています。

Oracle ILOM リモートコンソールには 32 ビット JDK が必要であることを説明するドキュメントの更新

CR 6938720

問題: 64 ビット JDK ファイルタイプが Web ブラウザで指定されていると、Oracle ILOM リモートコンソール機能の起動に失敗します。

更新: 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - Web 手順ガイド』に追加された手順の中で、Firefox Web ブラウザまたは Internet Explorer Web ブラウザの使用時に 32 ビットの JDK ファイルを指定するようユーザーに指示しています。

Solaris クライアントから RHEL ホストへの DVD リダイレクトで手動マウントが必要になる

CR 6876387

問題: DVD (物理ドライブまたはイメージファイル) を Oracle Solaris から Red Hat Enterprise Linux (RHEL) にリダイレクトするとき、フロッピーと CD-ROM のアイコンは RHEL に表示されますが、CD-ROM アイコンをクリックしても DVD の内容を見ることができません。

更新: これは Oracle ILOM 3.0.10 の既知の問題として報告済みです。この問題は Oracle ILOM 3.0.10 の時点で修正されており、回避方法の手順が『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 機能更新およびリリースノート』に追加されています。回避方法については、[52 ページの「Solaris クライアントから RHEL ホストへの DVD リダイレクトで手動マウントが必要になる」](#)を参照してください。

Internet Explorer 6 を使用しているときに Oracle ILOM Web インタフェースから SP に接続できない

CR 6934155

問題: Oracle ILOM での SSL セキュリティが強化されたため、Internet Explorer (IE) 6 では HTTPS 経由で Oracle ILOM SP Web インタフェースを起動することができません。

更新: これは Oracle ILOM 3.0.10 の既知の問題として報告済みです。この問題は Oracle ILOM 3.0.10 の時点で修正されており、回避方法の手順が『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 機能更新およびリリースノート』に追加されています。回避方法については、[56 ページの「Internet Explorer 6 を使用しているときに Oracle ILOM Web インタフェースから SP に接続できない」](#)を参照してください。

Oracle ILOM 3.0.12 の時点で既知の問題

このセクションでは、Oracle ILOM 3.0.12 ファームウェアリリースの時点での既知の問題について説明します。各問題の変更リクエスト (CR) ID 番号と説明をあわせて示します。

トピックの説明	リンク
Sun Blade 6048 モジュラーシステムでのセンサーの読み取りの制限	<ul style="list-style-type: none"> ■ 66 ページの「Sun Blade 6048 モジュラーシステム: シャーシの電力センサーの読み取りの制限」

Sun Blade 6048 モジュラーシステム: シャーシの電力センサーの読み取りの制限

CR 6654869

影響を受ける PSU センサーの読み取り値: psX.ac_watts、psX.dc_watts、および psX.peff

制限: CLI の利用可能な PSU センサーの読み取りの場合は、PSU X が AC 電源入力を利用できる状態で、PSU の各サイドに少なくとも 25 アンペアの電流がある必要があります。各サイドで電流が 25 アンペアより低い場合は、シャーシ全体の測定を正確に計算できないため、影響を受ける PSU センサーに「Not Readable」と表示されません。

PSU 0 または PSU 1 に「Not Readable」が表示された場合は、CLI のシャーシセンサー ch.ac_watts および ch.dc_watts でも「Not Readable」が表示されます。

また、Web インタフェース (「System Monitoring」 > 「Power Management」 > 「Advanced Powered Metrics」) では、次のプロパティのセンサー情報が表示されません。

- 「Chassis DC Consumed Power」 > 「ch.dc_watts」
- 「Chassis AC Consumed Power」 > 「ch.ac_watts」
- 「PSU 0 AC Consumed Power」 > 「ps0.ac_watts」
- 「PSU 0 DC Consumed Power」 > 「ps0.dc_watts」
- 「PSU 0 Power Efficiency」 > 「ps0.peff」
- 「PSU 1 AC Consumed Power」 > 「ps1.ac_watts」
- 「PSU 1 DC Consumed Power」 > 「ps1.dc_watts」
- 「PSU 1 Power Efficiency」 > 「ps1.peff」

注 - PSU が取り付けられていないか、シャーシから引き抜かれている場合は、その PSU の電力の読み取り値はユーザーインタフェースに表示されません。

一般的に、PSU センサーの読み取りを行うには、シャーシにブレードサーバーモジュールが半分以上割り当てられている必要があります。

Oracle ILOM 3.0.16 ファームウェアに対する更新

Oracle ILOM 3.0.16 ファームウェアリリースは、報告された問題に対する修正のみが行われ、新機能は含まれていません。

このセクションのトピックは次のとおりです。

- 67 ページの「ILOM 3.0.16 の時点で解決済みの問題」
- 77 ページの「Oracle ILOM 3.0.16 の時点で既知の問題」
- 79 ページの「Oracle ILOM ドキュメントライブラリの強化」

ILOM 3.0.16 の時点で解決済みの問題

このセクションでは、Oracle ILOM 3.0.16 リリースの時点で解決済みとなっている問題について説明します。各問題に固有の変更リクエスト (CR) ID 番号と更新が存在する場合は、あわせて示します。

説明	リンク
クリティカルなしきい値を超えたときにエラーが報告されない	■ 69 ページの「ソフトしきい値 (クリティカル) を超えたときにエラーが報告されない」
SNMP 認証パスワードがイベントログで平文として表示される	■ 69 ページの「イベントリストで SNMP 認証パスワードが平文として表示される」
顧客の FRU データを設定したあとに、Oracle ILOM ユーザーインタフェースがハングアップする	■ 69 ページの「顧客の FRU データを設定するとユーザーインタフェースがハングアップする」
サーバー SP のレポート後にインストールレコードが自動的に作成される	■ 70 ページの「サーバー SP のレポート後にインストールレコードが作成される」
ポート走査で TCP UDP ポートが検出されない	■ 70 ページの「UDP ポート 781 と 782 が検出されない」
CMM Web インタフェースで、IPv6 に無効な組み合わせの設定を使用できる	■ 70 ページの「Web インタフェースでの IPv6 設定で無効な組み合わせのオプションを使用できる」

説明	リンク
SNMPv3 トラップで AES 暗号化がサポートされていない	■ 71 ページの「SNMPv3 トラップで AES 暗号化が機能しない」
load コマンドのヘルプテキストにエラーメッセージが表示される	■ 71 ページの「load コマンドのヘルプテキストにコマンドエラーメッセージが表示される」
CMM Web インタフェースから IPv4 ネットワーク設定を行うと失敗する	■ 71 ページの「CMM Web インタフェースからブレードの IPv4 ネットワーク設定を実行できない」
IPv6 のプロパティと値が Oracle ILOM CLI に表示されない	■ 72 ページの「IPv6 CLI のプロパティと値が表示されない」
LDAP 構成の設定を変更したあとにログインが失敗する	■ 72 ページの「LDAP の変更後に Oracle ILOM にログインできない」
電子メール警告が正しくフィルタされない	■ 73 ページの「電子メール警告のイベントフィルタリングが機能しない」
IPv6 の自動構成の場合に、不適切な CLI プロパティ値が表示される	■ 73 ページの「DHCPv6 を構成していないときに IPv6 の自動構成の値が none と表示される」
サーバーのブート後に問題のない IPv6 構成エラーメッセージが表示される	■ 73 ページの「SP のブート時に IPv6 の構成がないというエラーメッセージが表示される」
ファームウェアのアップグレードに関する Web インタフェースボタンが非表示にならない	■ 74 ページの「ファームウェアイメージのアップロード中に「URL」ボタンが有効のまま」
FRU データの拡張機能を Oracle ILOM ファームウェア Version 3.0.16 で使用できる	■ 74 ページの「Fault Management Shell の拡張 FRU 情報」
警告ルールデータが復元されない	■ 74 ページの「復元処理で警告ルールが復元されない」
障害の解消後に重複する SNMP トラップが作成される	■ 74 ページの「障害ステータスを解消したあとに 2 つの同じ SNMP トラップが作成される」
拡張 RADIUS 認証の IPv6 構成のサポート	■ 75 ページの「RADIUS IPv6 認証の拡張」
Web インタフェースでの Active Directory グループ名が 180 文字をサポート	■ 75 ページの「128 文字をサポートする「Active Directory Group Names」の拡張」
DHCPv6 を有効にし直したあと IPv6 アドレスが更新されない	■ 75 ページの「DHCPv6 を有効にし直したあとで IPv6 アドレスが要求されない」
Web インタフェースに表示されるタイムゾーンオプションの一覧が不完全	■ 75 ページの「Web インタフェースでタイムゾーンのオプションが表示されない」

説明	リンク
電源コードを差し直すと、UTC の日付が現地の日付と時間に変わる	<ul style="list-style-type: none"> 76 ページの「電源コードを差し直すと、UTC の日付が現地の日付と時間に変わる」
イーサネット USB デバイスに関する拡張 SNMP のサポート	<ul style="list-style-type: none"> 76 ページの「イーサネット USB デバイスの SNMP サポートを拡張する強化」
ファームウェアのアップグレードでサポートされるプロトコルの一覧が不完全	<ul style="list-style-type: none"> 76 ページの「更新されたドキュメントはファームウェアのアップグレードでサポートされるプロトコルの一覧を完全に反映」

ソフトしきい値 (クリティカル) を超えたときにエラーが報告されない

CR 7001929

問題: センサーソフトしきい値 (クリティカル) を超えたときに、Oracle ILOM でエラーが報告されません。

更新: この問題は、Oracle ILOM ファームウェア Version 3.0.12 または 3.0.14 を実行する SPARC および x86 サーバーの両方で報告されました。この問題の修正は Oracle ILOM 3.0.16 で行われました。

イベントリストで **SNMP** 認証パスワードが平文として表示される

CR 6801690

問題: セキュリティーデータが非表示になりません。

更新: この問題は、Oracle ILOM ファームウェア Version 3.0.9、3.0.10、3.0.12、および 3.0.14 について報告されました。この問題の修正は Oracle ILOM 3.0.16 で行われました。

顧客の **FRU** データを設定するとユーザーインターフェースがハングアップする

CR 7009655

問題: spsh の処理と、顧客の FRU データを設定するための同等の Web インタフェース処理 (-> `set /SP customer_frudata=<value>`) によって、ユーザーインタフェースがハングアップします。

回避方法: SP をリポートします。

更新: この問題は、Oracle ILOM ファームウェア Version 3.0.12 または 3.0.14 を実行する SPARC および x86 サーバーの両方で報告されました。この問題の修正は Oracle ILOM 3.0.16 で行われました。

サーバー **SP** のリポート後にインストールレコードが作成される

CR 7007378、CR 7023811

問題: SP のリポート後に、新しいインストールレコードが履歴イベントログに自動的に書き込まれます。

更新: この問題は、Oracle ILOM ファームウェア Version 3.0.3、3.0.6、3.0.8、および 3.0.9 で報告されました。この問題の修正は Oracle ILOM 3.0.16 で行われました。

UDP ポート **781** と **782** が検出されない

CR 7008946

問題: ポート走査の実行後に、TCP - User Datagram Protocol (UDP) ポート 781 と 782 が検出されません。

更新: この問題は、Oracle ILOM ファームウェア Version 3.0.9、3.0.10、3.0.12、および 3.0.14 で報告されました。この問題の修正は Oracle ILOM 3.0.16 で行われました。

Web インタフェースでの **IPv6** 設定で無効な組み合わせのオプションを使用できる

CR 7013078

問題: Oracle ILOM Web インタフェースの「Network」ページで、無効な組み合わせの IPv6 設定を選択できます。

影響を受けるシステム: Oracle ILOM 3.0.12 または 3.0.14 を実行している Sun Fire X4800 および X4800 M2 サーバーと Sun Blade CMM。

更新: この問題の修正は Oracle ILOM 3.0.16 で行われました。

SNMPv3 トラップで AES 暗号化が機能しない

CR 7025333

問題: SNMPv3 で AES が有効な場合、Oracle ILOM からトラップセッションの暗号化パラメータが送信されません。

更新: この問題は、Oracle ILOM ファームウェア Version 3.0.14 で報告されました。この問題の修正は Oracle ILOM 3.0.16 で行われました。

load コマンドのヘルプテキストにコマンドエラーメッセージが表示される

CR 6975735

問題: 次のように、load コマンドのヘルプテキストの末尾にエラーメッセージが表示されます。

```
-> load -h -source tftp://archive1.east/newmainimage
/CMM/image/main
The load command transfers a file from a remote location specified
by the URI and updates the given target.
Usage: load [-o verbose] [-force] [-script] -source <URI> [target]
```

```
Available options for this command:
-script : do not prompt for yes/no confirmation and act as if yes
was specified
-source : specify the location to get a file
-force (-f) : override internal checks and load requested file.
-output (-o) verbose : display extensive information
load: Command Failed
```

更新: この問題は、Oracle ILOM ファームウェア Version 3.0.12 を実行する SPARC および x86 サーバーの両方で最初に報告されました。この問題の修正は Oracle ILOM 3.0.16 で行われました。

CMMWeb インタフェースからブレードの IPv4 ネットワーク設定を実行できない

CR 7030118

問題: CMM Web インタフェースを使用してブレードサーバーの IPv4 設定を変更すると、処理が失敗し、エラーメッセージが表示されます。

エラーメッセージの例を次に示します。

```
User Agent: Mozilla/4.0 (compatible; MSIE 8.0; Windows NT 5.1;
Trident/4.0; .NET CLR 2.0.50727; CIBA; .NET CLR 3.0.4506.2152; .NET
CLR 3.5.30729; aff-kingsoft-ciba; staticlogin:product=
cboxf09&act=login&info=
Zm1sZW5hbWU9UG93ZXJ3b3JkMjAwOU94Zi4yNTI2OS40MDExLmV4ZSztYW9NzQzR
UWwMzY0QTlCNENFRtLDODVEQ0FDREE2REUzQjImcGFzc3BvcnQ9JnZlcnNpb249Mj
AwOS4wNS4yNS4zLjI3MiZjcmFzaHR5cGU9MQ==&verify=
1416024ee173e70d401133eab2eed626)
Timestamp: Wed, 23 Mar 2011 05:41:26 UTC
```

更新: この問題はブレードサーバーと CMM で報告されました。この問題の修正は Oracle ILOM 3.0.16 で行われました。

IPv6 CLI のプロパティと値が表示されない

CR 7022641

問題: /SP/network/ipv6 ターゲットで ls または show コマンドを発行すると、IPv6 CLI のプロパティと値が表示されないことがあります。

例:

```
-> show

/SP/network/ipv6
Targets:

Properties:

Commands:
cd
show
```

更新: この問題は、Oracle ILOM ファームウェア Version 3.0.12 または 3.0.14 を実行する SPARC および x86 サーバーの両方で報告されました。この問題の修正は Oracle ILOM 3.0.16 で行われました。

LDAP の変更後に Oracle ILOM にログインできない

CR 6957377

問題: LDAP 構成の設定を変更したあとに、sunservice ではないアカウントユーザーは Oracle ILOM SP にログインできなくなります。

更新: この問題は、Oracle ILOM 3.0.12 または 3.0.14 を実行する x86 および SPARC サーバーの両方で報告されました。この問題の修正は Oracle ILOM 3.0.16 で行われました。

電子メール警告のイベントフィルタリングが機能しない

CR 6960012

問題: 電子メール警告のイベントフィルタリングを設定したあと、受信した電子メール警告が指定したイベントフィルタと一致しません。

更新: この問題は、Oracle ILOM 3.0.12 を実行する x86 および SPARC サーバーの両方で報告されました。この問題の修正は Oracle ILOM 3.0.16 で行われました。

DHCPv6 を構成していないときに IPv6 の自動構成の値が none と表示される

CR 6971302

問題: DHCPv6 のオプションを設定していない場合、autoconfig プロパティの値は /ipv6 ターゲットで none と表示されます。

例:

```
-> show /CMM/network/ipv6
```

```
/CMM/network/ipv6  
Targets:
```

```
Properties:  
state = enabled  
autoconfig = (none)
```

更新: この問題は、Oracle ILOM 3.0.12 を実行する x86 サーバーおよび CMM で報告されました。この問題の修正は Oracle ILOM 3.0.16 で行われました。

SP のブート時に IPv6 の構成がないというエラーメッセージが表示される

CR 6972218

問題: IPv6 が有効になっていないシステムでエラーメッセージが表示されます。IPv6 の構成がないというエラーが示されます。

例:

```
No /conf/ipv6.conf
```

更新: これは問題のないエラーメッセージです。このエラーメッセージは、Oracle ILOM 3.0.14 で最初に報告されました。この問題の修正は Oracle ILOM 3.0.16 で行われました。

ファームウェアイメージのアップロード中に「URL」ボタンが有効のまま

CR 6905194

問題: ファームウェアのアップグレードパッケージを参照して選択し、「Upload」ボタンをクリックしても、Oracle ILOM Web インタフェースの「Firmware Upgrade」ページの「URL」ボタンは有効なままです。

更新: この問題は、Oracle ILOM 3.0.6 で最初に報告されました。修正は Oracle ILOM 3.0.16 で行われ、「File」モード時の「URL」ボタンと「URL」モード時の「File」ボタンが無効になりました。

Fault Management Shell の拡張 FRU 情報

CR 6986979

問題: Oracle ILOM Fault Management Shell で `fmadm faulty` コマンドを実行したあと、FRU の説明に関する情報が一部しか報告されません。

更新: この問題は、Oracle ILOM ファームウェア Version 3.0.12 または 3.0.14 を実行する SPARC および x86 サーバーで最初に報告されました。修正は Oracle ILOM 3.0.16 で行われ、FRU のパート番号とシリアル番号が報告されるようになりました。

復元処理で警告ルールが復元されない

CR 6974627

問題: バックアップおよび復元処理の実行後に、警告ルールのコミュニティーまたはユーザー名のプロパティが正しく復元されません。

更新: この問題は、Oracle ILOM 3.0.14 で最初に報告されました。この問題の修正は Oracle ILOM 3.0.16 で行われました。

障害ステータスを解消したあとに 2 つの同じ SNMP トラップが作成される

CR 6937119

問題: コンポーネントの障害ステータスを解消したあとに、2つの同じ SNMP トラップが生成されます。

更新: この問題は、Oracle ILOM 3.0.14 で最初に報告されました。この問題の修正は Oracle ILOM 3.0.16 で行われました。

RADIUS IPv6 認証の拡張

CR 6971702

問題: RADIUS 認証が IPv6 に対してサポートされない。

更新: IPv6 での RADIUS 認証の拡張に対するリクエストは、Oracle ILOM 3.0.14 で最初に報告されました。この拡張は Oracle ILOM 3.0.16 で行われました。

128 文字をサポートする「Active Directory Group Names」の拡張

CR 6904821

問題: Oracle ILOM Web インタフェースの Activity Directory は 80 文字をサポートしません。

更新: 「Active Directory Group Names」で 128 文字をサポートするという拡張は、Oracle ILOM 3.0.16 で行われました。

DHCPv6 を有効にし直したあとで IPv6 アドレスが要求されない

CR 6978898

問題: dhcpv6_stateful を使用するようにサーバーの SP を構成してから SP をリポートすると、Oracle ILOM は DHCPv6 サーバーに対して問題なく IPv6 アドレスを要求します。ただし、IPv6 の状態を無効にしてから IPv6 の状態を有効にすると、Oracle ILOM は DHCPv6 に対して IPv6 アドレスを要求しなくなります。

更新: この問題は、Oracle ILOM 3.0.14 で最初に報告されました。この問題の修正は Oracle ILOM 3.0.16 で行われました。

Web インタフェースでタイムゾーンのオプションが表示されない

CR 6976772

問題: Oracle ILOM Web インタフェースに、次のタイムゾーンのオプションが表示されません。

- アメリカ/アルゼンチン/サルタ
- アメリカ/アルゼンチン/サンルイス
- アメリカ/サンタレム
- アジア/ホーチミン
- アジア/カトマンズ
- アジア/コルカタ

更新: この問題の修正は Oracle ILOM 3.0.16 で行われました。

電源コードを差し直すと、**UTC**の日付が現地の日付と時間に変わる

CR 6922544

問題: 電源コードを外して差し直すと、Oracle ILOM の UTC の時計設定が現地の変わります。

回避方法: /SP を再設定してから電源コードを差し直します。

更新: この問題は、Oracle ILOM 3.0.12 で最初に報告されました。この問題の修正は Oracle ILOM 3.0.16 で行われました。

イーサネット **USB** デバイスの **SNMP** サポートを拡張する強化

CR 6941313

問題: Oracle ILOM の SNMP 管理インタフェースではイーサネット USB デバイスをサポートしていません。

更新: Oracle ILOM ファームウェア Version 3.0.16 から、Oracle ILOM の SNMP インタフェースはイーサネット USB デバイスの管理をサポートするようになりました。この強化は、Oracle ILOM CLI と Web インタフェースのイーサネット USB のサポートと同様です。

更新されたドキュメントはファームウェアのアップグレードでサポートされるプロトコルの一覧を完全に反映

CR 7176571

問題: 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 保守と診断 - CLI および Web ガイド』のファームウェアの更新の手順では、ファームウェアイメージを TFTP、FTP、または HTTP サーバーに転送するように指示しています。ただし、Oracle ILOM Web インタフェースの「Firmware Upgrade」ページおよび Oracle ILOM CLI の load コマンドは、ドキュメントに示されているプロトコルに加えて、SFTP、SCP、および HTTP をサポートします。

更新: ファームウェアのアップグレードでサポートされるプロトコルの一覧が、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 保守と診断 - CLI および Web ガイド』および『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - CLI 手順ガイド』に追加されました。

Oracle ILOM 3.0.16 の時点で既知の問題

このセクションでは、Oracle ILOM 3.0.16 の時点で報告されている既知の問題について説明します。

説明	リンク
IPv6 ネットワーク環境に関する Oracle ILOM リモートコンソールの要件	<ul style="list-style-type: none"> 77 ページの「Windows クライアントに関する Oracle ILOM リモートコンソールの IPv6 の要件」
一重または二重引用符を使用して KVMS のカスタムロックのプロパティ値を設定できない	<ul style="list-style-type: none"> 78 ページの「リモートコンソールのカスタムロックキー (CLI) で一重または二重引用符を設定できない」
電源コードを抜くと、誤ったエラーイベントが生成される	<ul style="list-style-type: none"> 78 ページの「電源コードを抜いたあとに、CMM ログに誤ったイベントが報告される」

Windows クライアントに関する Oracle ILOM リモートコンソールの IPv6 の要件

CR 6993498

問題: IPv6 ネットワーク環境の場合、Java Development Kit (JDK) は Microsoft Windows XP をサポートしないため、Windows XP IPv6 クライアントからの Oracle ILOM リモートコンソールの起動はサポートされていません。

回避方法: IPv6 を使用し、Microsoft Windows オペレーティングシステムを使用するネットワーク環境の場合、JDK170b36 以降を使用して Microsoft Windows Vista/2008/7 クライアントから ILOM リモートコンソールを起動します。

リモートコンソールのカスタムロックキー (CLI) で一重または二重引用符を設定できない

CR 7017023

問題: Oracle ILOM CLI を使用して、`/SP/services/kvms custom_lock_key` で二重 (") または一重 (') 引用符を設定できません。

回避方法: 次の回避方法のいずれかを実行します。

- Oracle ILOM CLI で、異なる文字を使用して `/kvms custom_lock_key` のプロパティ値を設定します。
または
- Oracle ILOM Web インタフェースを使用して、Oracle ILOM リモートコンソールのカスタムロックオプションで二重または一重引用符を設定します。手順については、『Oracle ILOM 3.0 リモートリダイレクションコンソール - CLI および Web ガイド』を参照してください。

電源コードを抜いたあとに、CMM ログに誤ったイベントが報告される

CR 7051063

問題: 2つの電源コードを持つシャーシで1つの電源コードを抜くと、次のセンサーに対する複数のエラーイベントが Oracle ILOM CMM ログに誤って報告されます。

- 影響を受ける PSU の `V_OUT_OK` センサー
- 影響を受けない PSU の `V_IN_ERR` センサー

影響を受けるシステム: Oracle の Sun Blade 6000 CMM

回避方法: シャーシの1つの電源コードを抜く場合は、次を無視します。

- 影響を受けない PSU の `V_OUT_OK` センサーに関するすべてのイベントメッセージ
- 影響を受ける PSU の `V_IN_ERR` センサーに関するアサートされていないイベントメッセージ
- 影響を受ける PSU の誤って削除されたメッセージ

Oracle ILOM ドキュメントライブラリの強化

Oracle ILOM 3.0.16 から、Oracle ILOM 3.0 ドキュメントライブラリの次の点が強化されました。

- Oracle ILOM システム管理機能について説明するガイドが再構成され、日常的な管理タスク、保守および診断タスク、リモートからのリダイレクションコンソールに関連するタスク、CMM 管理タスク、およびプロトコル管理タスクが取り入れられました。
- 個別の Oracle ILOM PDF ガイドに加え、新しい HTML オンラインドキュメントセットを利用できるようになりました。Oracle ILOM 3.0 HTML マニュアルセットは、Oracle ILOM ドキュメントライブラリの『Oracle ILOM 3.0 Program Documentation Third Party Licenses and Notices』および『Basic CLI Command Reference』を除くすべてのガイドで構成されます。

Oracle ILOM 3.0 ドキュメントライブラリには、次の URL からアクセスできます。

<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E19860-01&id=homepage>

次の表に、更新された Oracle ILOM 3.0 のタイトルとドキュメントの説明を記載します。

用途	タイトル	形式
オンラインドキュメントセット	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 HTML ドキュメントコレクション』	HTML
クイックスタート	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 クイックスタートガイド』	PDF
リモート KVMs	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 リモートリダイレクションコンソール - CLI および Web ガイド』	PDF
日常的な管理機能	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - 概念ガイド』	PDF
日常的な管理の Web による手順	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - Web 手順ガイド』	PDF
日常的な管理の CLI による手順	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 - CLI 手順ガイド』	PDF
プロトコル管理	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 プロトコル管理 - SNMP、IPMI、CIM、WS-MAN ガイド』	PDF
CMM 管理	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CMM 管理ガイド - Sun Blade 6000/Sun Blade 6048 モジュラーシステム』	PDF
保守および診断	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 保守と診断 - CLI および Web ガイド』	PDF

用途	タイトル	形式
最新情報	Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 機能更新およびリリースノート	PDF
